

車載型デジタル簡易無線機 IC-DU7505



この無線機を使用するためには、総務省の無線局の免許が必要です。
免許を受けずに使用すると、電波法第110条の規定により処罰されます。

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた国内業務用車載型デジタル簡易無線機です。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

本製品の概要

- ◎IP54(防塵形と防まつ形)^{★1}の性能に対応できるように設計されています。
- ◎デジタル通信により、高音質な交信ができます。
- ◎チャンネル番号音声案内機能により、通話チャンネルを切り替えたとき、選択した通話チャンネル番号を音声で読み上げます。
- ◎通話チャンネル番号の代わりに、漢字、英数字、記号、外字^{★2}を使用した名称で表示できます。^{★3}
- ◎秘話機能^{★3}や拡張秘話機能^{★3}を設定することで、他局に通話内容を傍受されるのを防止できます。
- ◎個別呼び出し機能^{★3}や緊急呼び出し機能^{★3}に対応しています。
- ◎GPSユニット(別売品:UX-267)^{★3}を接続することで、自局の位置情報を受信(測位)して、送信できます。
- ◎コマンドマイク(別売品:HM-253)を接続することで録音/再生機能^{★3}により、送信したときの通話、および自局宛での通話を録音、および再生できます。
- ◎卓上電源装置(別売品:PS-230A)と組み合わせることで、屋内のAC電源を使用できます。
- ◎個別呼び出し機能を使用しない場合、種別コード「3B」、「3C」、「3D」の他社製デジタル簡易無線機と通話互換があります。^{★4}
※中継機の使用については、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

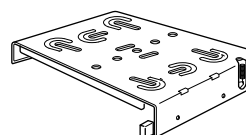
★1 「IP表記」(P.ii)をご覧ください。

★2 HM-253(コマンドマイク)を接続しているときは、外字を表示できません。

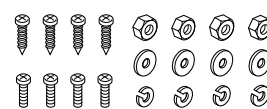
★3 お買い上げの販売店で設定が必要な機能です。

★4 AMBE+2TM方式を採用している機種に対応しています。

付属品



車載ブラケット



取り付けネジ式^{★1}
(車載ブラケット用)



圧着端子
(バッテリー接続用)



DC電源ケーブル



予備ヒューズ
(125V/5A)



マイクハンガー^{★2}
(取り付けネジ式を含む)

- ☐ 簡易取扱説明書
- ☐ ご注意と保守について
- ☐ 保証書

★1 車載ブラケットを別売品のPS-230Aに固定するときにも使用します。

★2 マイクロホンは、同梱されていません。
別売品のマイクロホン(HM-254など)をご用意ください。

取扱説明書の内容

本書に記載の操作や機能は、お買い上げの販売店であらかじめ設定をご依頼いただくことにより使用できる機能も含まれています。

一般的なご使用を想定した内容にしていますので、ご使用になる機能や操作について詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

登録商標/著作権

アイコム、ICOM、ICOMロゴ、ポケットビーブ、コマンドマイクは、アイコム株式会社の登録商標です。

AMBE+2は、Digital Voice Systems, Inc.の商標です。

Bluetoothのワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、アイコム株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。

その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

なお、本文中ではTM、®などのマークを省略しています。

本書の内容の一部、または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。

はじめに

電波法上のご注意

- ◎本製品は、電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。
ご自分で分解や改造をしないでください。
- ◎免許状に記載されている範囲内で通信してください。
- ◎他局の通信を妨害することや、通話の内容をほかにもらし、これを窃用することは、かたく禁じられています。
- ◎免許の有効期限は、免許取得日から数えて5年間です。
再免許の申請は、免許の切れる6ヵ月前から3ヵ月前のあいだに手続きをしてください。
- ◎使用できるのは、日本国内に限られています。

防塵/防水性能

マイクロホンが無線機本体に接続することで、IP54の防塵/防水性能があります。

次のような使いかたをすると、防塵/防水性能を維持できませんので、ご注意ください。

- ◎雨の中や水滴が付着、またはぬれた手で、マイクロホンや外部スピーカーを付けたり、はずしたりしたとき
- ◎コマンドマイク(HM-253)、または防水スピーカーマイクロホン(HM-254)が接続されていない、または正しく接続されていない
- ◎落とししたりして、強い衝撃が加わったとき
- ◎本製品を分解、または改造したとき
- ◎水や湯を水道の蛇口から直接当てたとき
- ◎水や海水につけたとき
- ◎-20℃～+60℃以外の環境で使用したとき

IP表記

機器内への異物の侵入に対する保護性能を表すための表記です。

IPにつづけて保護等級を示す数字で記載され、1つ目の数字が防塵等級、2つ目が防水等級を意味します。

また、保護等級を定めない場合は、その等級の表記に該当する数字部分を「X」で表記します。

【本書で記載する保護の程度について】

- IP5X(防塵形) : 試験用粉塵を1m³あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのち取り出して、無線機として動作すること
- IPX4(防まつ形) : いかなる方向からの水の飛まつを受けても有害な影響がないこと

別売品の使用による防塵/防水性能

防水スピーカーマイクロホン(HM-254)、コマンドマイク(HM-253)を無線機本体に接続することで、IP54の防塵/防水性能があります。

※上記以外の別売品(9章)については、防塵/防水構造になっていないので、ご注意ください。

取り扱い上のご注意

- ◎本製品を電気自動車やハイブリッドカーでご使用になる場合、電気自動車やハイブリッドカーに搭載されているインバーターからのノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。
- ◎テレビ・ラジオなどのAV機器や、携帯電話などの電子機器を近くで使用すると、電波障害を受けることがありますので、はなして設置してください。
- ◎直射日光の当たる場所に設置したり、長時間放置したりしないでください。
移動局として車内に設置する場合、炎天下では、車内の温度が極端に上昇し、本製品に悪影響を与えます。
また、真冬は、ある程度車内の温度を上げてからご使用ください。
- ◎車載運用では、バッテリー保護のためにも、1日の使用が終わったときは、必ず本製品の電源を切ってください。
- ◎磁気カードをマイクロホンやスピーカーに近づけないでください。
磁気カードの内容が消去されることがあります。
- ◎本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。
- ◎本製品の故障、誤動作、不具合あるいは停電などの外部要因により、通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
- ◎本製品は、高度な信頼性が必要な用途に使用されることを目的とした製品ではありません。周囲の状況(ネットワークの状態、天候、山や建物などの障害物)など、周囲の環境によって、通信できないことがあります。
緊急呼び出し関連の機能についても、補助的な使用を目的とした機能としてご理解ください。

はじめに

車両に取り付けるときのご注意

- ◎自動車の板金部に沿ってDC電源ケーブルを通す場合、保護用テープを巻くことをおすすめします。
DC電源ケーブルと板金部がこすれると、外被が破れ、ショートの原因となることがあります。
- ◎本製品を自動車に取り付けたあと、本製品の電源を入れた状態で、自動車のブレーキランプ、ヘッドライト、ウインカー、ワイパーなどが正常に動作することを確認してください。
- ◎アンテナの同軸ケーブルからも微小ですが電波がふく射されるので、自動車のコンピューター(コントロールユニット)、およびハーネスから遠ざけ、ハーネスと交差する場合は、ハーネスと直角になるように取り付けてください。
- ◎自動車のコンピューター(コントロールユニット)に影響をおよぼさないようにするため、無線機、アンテナ、同軸ケーブルなどは、次のような電波障害留意機器より20cm以上はなして取り付けてください。
 - エンジン関係：燃料噴射装置/エンジンコントロールユニット(ガソリン車)、グローコントロールユニット(ディーゼル車)
 - トランスミッション関係
 - ：電子制御式変速機/4WDコントロールユニット
 - その他
 - ：ECS/EPS/ABS/ETACS/フルオートエアコン/オートヒーターコントロールユニット/Gセンサー
- ◎本製品を操作中、自動車のコンピューター(コントロールユニット)に影響をおよぼしていることがわかった時点で、本製品の電源を切り、DC電源ケーブルを本製品から抜いてください。
- ◎本製品、および別売品を取り付ける場合、安全運転に支障がないように(ケーブル等が絡まらないように)配線してください。
- ◎エアバッグシステム装備車に本製品、および別売品を取り付けるときは、このシステムの動作に影響をおよぼす取り付けかたはしないでください。

運転時のご注意

- ◎安全運転のため、運転中に無線機を操作したり、無線機の表示部を注視(表示部を見つづける行為)したりしないでください。
- ◎無線機を操作、または表示部を注視する場合は、必ず安全な場所に停車させてください。
- ◎安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で運転しないでください。

音声圧縮(符号化)方式

本製品は、米国DVSI社の開発したAMBE(Advanced Multi-Band Excitation)方式を採用しており、AMBE+2™方式に対応しています。

The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to extract, remove, decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form. U.S. Patent Nos. #8,359,197 and #7,970,606.

GPSに関する注意事項

GPS(Global Positioning System)は、米国が開発、および運用管理をしています。

同国の政策上、予告なしに測位精度の悪化、GPS衛星の調整、試験、および軌道修正などで、いくつかの衛星信号が発信停止する場合や、メンテナンスなどで衛星から異常電波が発信される場合があります。

このような場合、誤作動したり、測位精度が著しく悪化したりする場合があります。

下記の注意事項を十分配慮して、GPSをお使いください。

測位精度に関する注意事項

受信衛星の配置や電磁障害、受信信号のマルチパスなどの影響により、測位精度が著しく悪化した状態(位置飛びなど)が発生する場合がありますので、ご注意ください。

装備に関する注意事項

本製品は、ノイズを発生する回路や機器からなるべくはなしてください。

GPS信号の周波数帯(1.575GHz付近)や、その整数分の1となる周波数の高調波が、受信や測位に影響を与える場合があります。

放熱について

本製品は長時間運用すると、後面部の温度が高くなります。

子供や周囲の人が後面部に触れないようにご注意ください。

また、本製品はできるだけ風通しのよい、放熱の妨げにならない場所に設置してください。

はじめに

電波干渉についてのご注意

Bluetoothの通信では2.4GHz帯の電波を使用するため、次のことがらに注意してください。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を必要とする無線局)および特定小電力無線局(免許を必要としない無線局)並びにアマチュア無線局(免許を必要とする無線局)が運用されています。

◎この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことをご確認ください。

◎万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用場所を変更するか、Bluetoothのご使用をお控えください。

◎その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きたときは、弊社サポートセンター(P.10-5)へお問い合わせください。

2.4GHz現品表示記号の意味

「2.4」:2.4GHz帯を使用する無線設備

「FH」:FHSS方式

「1」:想定干渉距離が10m以下

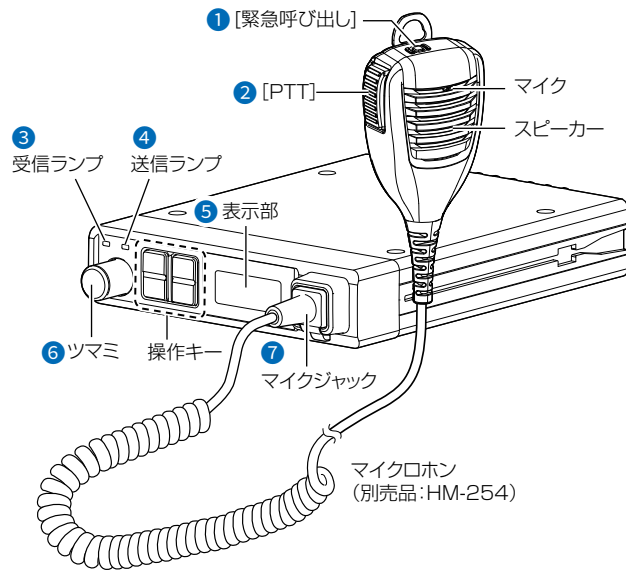
「---」:全帯域を使用し、かつ移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局並びにアマチュア無線局の帯域を回避不可

2.4FH1

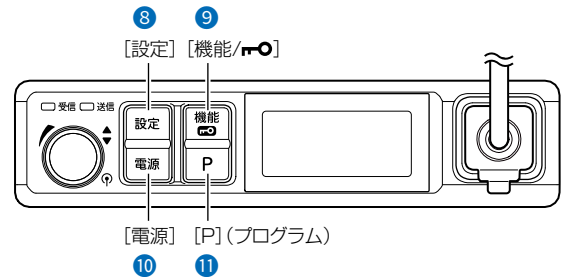
もくじ

はじめに	i	6. Bluetooth機能	6-1
本製品の概要	i	■ Bluetooth部の仕様	6-1
登録商標/著作権	i	■ ペアリング/接続のしかた	6-1
付属品	i	■ Bluetoothの初期化	6-2
取扱説明書の内容	i	■ Bluetoothの設定項目一覧	6-3
電波法上のご注意	ii	7. サブチャンネルPTT機能	7-1
防塵/防水性能	ii	■ サブチャンネルPTT機能とは	7-1
IP表記	ii	■ サブチャンネルを設定する	7-1
別売品の使用による防塵/防水性能	ii	■ サブチャンネルで送信する	7-2
取り扱い上のご注意	ii	■ サブチャンネルで個別呼び出しをする	7-2
車両に取り付けるときのご注意	iii	■ サブチャンネルで受信する	7-2
運転時のご注意	iii	8. 各種機能の設定	8-1
音声圧縮(符号化)方式	iii	■ 設定一覧	8-1
GPSに関する注意事項	iii	■ 設定モードに移行するには	8-1
放熱について	iii	■ 設定のしかた	8-1
電波干渉についてのご注意	iv	■ 設定項目について	8-2
2.4GHz現品表示記号の意味	iv	9. 別売品とその使いかた	9-1
1. 各部の名称と機能	1-1	■ 別売品についてのご注意	9-1
■ 前面部	1-1	■ ホームページに掲載	9-1
■ 表示部	1-2	■ 別売品一覧表	9-1
■ 後面部	1-3	■ HM-253(コマンドマイク)	9-2
2. 通話のしかた	2-1	■ AM-6(マグネット基台付きマイクロホン)	9-3
■ 通話するときのアドバイス	2-2	■ SM-28(デスクトップマイクロホン)	9-4
3. 簡単なグループ通話のしかた	3-1	10. 保守について	10-1
■ ユーザーコードを設定して通話するには	3-1	■ 日常の保守と点検について	10-1
4. 個別呼び出し機能による通話	4-1	■ ヒューズの交換について	10-1
■ 個別呼び出しの種類について	4-1	■ 外部機器接続ケーブルの端子について	10-2
■ 個別呼び出し機能で通話するには	4-2	■ 故障かな?と思ったら	10-4
5. そのほかの機能について	5-1	■ アフターサービスについて	10-5
■ ロック機能	5-1		
■ 受信専用機能	5-1		
■ モニター機能	5-1		
■ ポケットビープ機能	5-1		
■ 呼び出しメロディー機能	5-2		
■ 着信表示	5-2		
■ 秘話機能	5-2		
■ ショートメッセージ機能	5-3		
■ 拡声器機能	5-5		
■ 発着信履歴機能	5-6		
■ メモリーチャンネルスキャン機能	5-8		
■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)	5-9		
■ 録音/再生機能	5-10		
■ GPS機能	5-12		
■ 送信出力の切り替え機能	5-13		
■ 設定が必要な機能について	5-13		

■ 前面部



<操作キー>



★お買い上げの販売店で設定されている場合だけ、動作します。

① [緊急呼び出し]★

緊急呼び出し機能が設定されている場合、長く(5秒以上)押すと、緊急呼び出しを開始します。(P.5-9)

② [PTT]

押すと送信状態、はなすと待ち受け状態に切り替わります。

③ 受信ランプ

緑色に点灯: 受信
 橙色に点滅: 着信時★

④ 送信ランプ

赤色に点灯: 送信中

⑤ 表示部 (P.1-2)

⑥ ツマミ

- ◎ 回すと音量が変わります。
- ◎ ツマミを短く押してから回すと、チャンネル番号を選択できます。

⑦ マイクジャック

別売品のマイクロホン(HM-254など)を接続します。
 ※別売品のマイクロホン(AM-6、SM-28)を使用する場合は、外部スピーカーの接続が必要です。(P.9-3、P.9-4)

⑧ [設定]★

- ◎ 押すごとに、全体/基地/個別/グループ番号を選択する画面に切り替わります。
 ※ ツマミを回すと、個別番号、またはグループ番号を選択できます。
- ◎ 通話後、短く押すと、強制的に終話します。

⑨ [機能/LOCK]

- ◎ 短く押してから、ツマミを回すと、ユーザーコードを変更できます。
- ◎ 長く押すごとに、ロック機能をON/OFFします。

⑩ [電源]

電源をON/OFFします。

⑪ [P] (プログラム)★

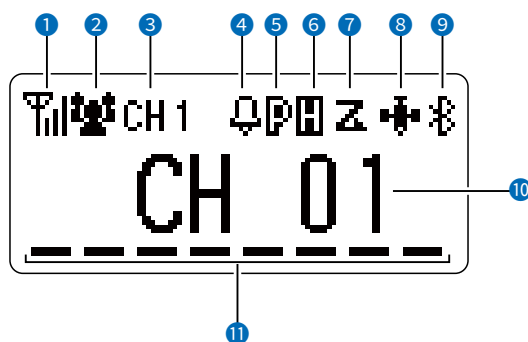
- 押しているあいだは、モニター機能が動作します。
 ※ モニター機能とは、音を聞きながら音量を調整するとき、またはユーザーコードが異なる他局の通話や秘話機能を使用しない他局の通話を聞くときに使用します。
- ※ モニター機能は、ロック機能(P.5-1)動作中でも使用できます。
- ※ 別売品のマイクロホン(HM-254、AM-6、SM-28)を接続している場合は、短く押すと、通話チャンネル表示に切り替わります。

ご参考

コマンドマイク(別売品: HM-253)が接続されているときは、無線機本体のキーでチャンネル番号、個別番号、グループ番号、ユーザーコードの切り替え操作が無効になります。

1 各部の名称と機能

■ 表示部



★お買い上げの販売店で設定されている場合だけ、表示されます。

① 電波状態表示

受信している電波の強度が、下図の3段階(目安)で表示されます。

📶 (弱) > 📶 (中) > 📶 (強)

※「📶」は、電源が入っているときは常に表示されています。

② 個別呼び出し表示★

個別呼び出し機能が設定されているときは、個別呼び出しの選択状態が表示されます。

👤 : 個別

👥 : 全体

📶 : 基地局

👥 : グループ

👥 : グループ(メンバー指定あり)

③ ガイド表示

現在のチャンネル番号を表示したり、着信などの状態を表示したりします。

📶★ : 個別呼び出し受信時

📶★ : 個別呼び出し機能で通話中

📧★ : ショートメッセージ受信時(P.5-3)

📶★ : 発信履歴(P.5-6)

📶★ : 着信履歴(P.5-6)

※秘話機能★が設定されているときは、「CH」で表示(例: CH 1)されます。(P.5-2)

④ ベル表示★

ポケットビープ機能が設定されているときに表示されます。(P.5-1)

呼び出しを受けると、点滅します。

⑤ Pベル表示★

Pベル機能が設定されているときに表示されます。(P.8-2)

⑥ 送信出力表示

各通話チャンネルの送信出力(High/Low)設定が表示されます。

📶 : ハイパワー(5W)

📶 : ローパワー(1W)

📶 : 受信専用チャンネル選択時

⑦ スキャン表示★

スキャン動作中に表示されます。

⑧ GPS表示★

GPSユニット(別売品:UX-267)使用時、GPSレシーバーの受信状態が表示されます。(P.5-12)

消灯: GPS機能を使用していないとき

点滅: 自局の位置情報を受信(測位)中

表示: GPS機能ON時で自局の位置情報の測位が完了

⑨ Bluetooth機能表示

📶: Bluetooth機能がON(P.6-1)

📶: Bluetooth機器と接続中

⑩ 個別番号/設定内容表示

音量、チャンネル番号、個別番号などが表示されます。

※設定モードでは、選択した設定項目が表示されます。(P.8-1)

また、ツマミを回すと、音量が表示されます。

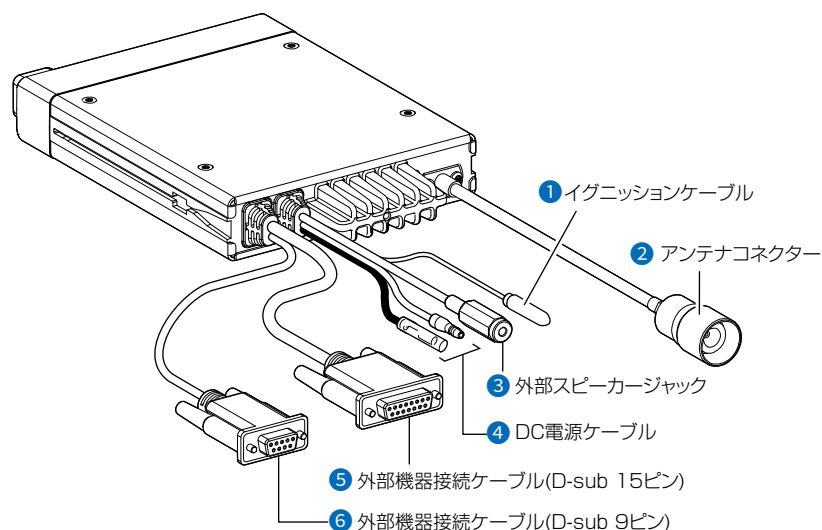
⑪ Sメーター表示

受信している電波の強度が、下図の8段階(目安)で表示されます。

📶 (弱) ————
📶 (中) ————
📶 (強) ————

1 各部の名称と機能

■ 後面部



★同じ製品名でも、外部機器接続ケーブルがない仕様があります。

① イグニッションケーブル(青色)

自動車のイグニッションキー(パワースイッチ)の操作と連動して、本製品の電源をON/OFFできるようにするときは、イグニッションキーをACC(アクセサリ)、またはIGN(イグニッション)の位置にすると、12V、または24Vになり、OFFの位置で0Vになる電源(イグニッションまたはACC)ラインに接続します。
※イグニッションキーの操作と連動させないときは、接続の必要はありません。

ほかの機器の端子などに接触しないように、イグニッションケーブル先端の保護キャップ(黒色)を付けた状態でご使用ください。

② アンテナコネクタ(N型：50Ω)

アンテナと接続します。

③ 外部スピーカージャック(φ3.5mm/4Ω/ステレオ)

外部スピーカー(別売品：SP-30、SP-35/L/H)、または卓上電源装置(別売品：PS-230A)のスピーカースラグと接続します。

※別売品のマイクロホン(AM-6、SM-28)を使用する場合は、外部スピーカーの接続が必要です。

④ DC電源ケーブル

DC電源ケーブル(付属品)を使用して、12V/24V系のバッテリーと接続します。

※入力電圧に応じて、12V/24Vを自動認識します。
※卓上電源装置(別売品：PS-230A)と接続することもできます。(P.9-1)

【過電圧/減電圧表示について】

供給されるDC電源電圧が低い場合は「減電圧」、高い場合は「過電圧」と表示され、「ピー、ピー、ピー」と鳴ります。

動作範囲の電圧に戻ると、通常表示に戻り、操作できます。

「過電圧」表示が消えても、過電圧が原因で故障している場合がありますので、無線機の点検が必要です。

※DC電源電圧が低い場合、電源が切れることがあります。

⑤ 外部機器接続ケーブル(D-sub 15ピン)*

将来的な機能拡張用(シリアルデータ通信など)に使用します。(P.10-2)

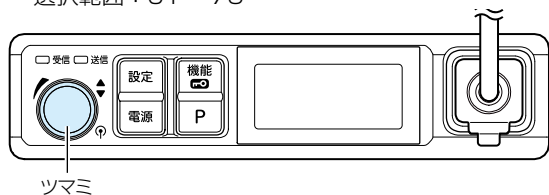
⑥ 外部機器接続ケーブル(D-sub 9ピン)*

GPSユニット(別売品：UX-267)を接続したり、将来的な機能拡張用(シリアルデータ通信など)に使用したりします。(P.10-3)

相手と同じ通話チャンネルに合わせるだけの簡単な通話のしかたについて説明しています。

1. 通話チャンネルを合わせる

1. ツマミを押します。
 - 表示(例: CH1)が点滅します。
2. ツマミを回して相手と同じ通話チャンネルに合わせます。
 - 選択範囲: 01 ~ 75



ツマミ



ツマミを押したときの表示



ツマミを回して切り替えたときのチャンネル表示(例:CH10)

ご参考 チャンネル番号音声案内機能について

電源を入れたときや、チャンネル番号を変更したとき、選択された通話チャンネル番号を読み上げます。
※使用しないときは、設定の変更をお買い上げの販売店にご依頼ください。

2. 呼び出しをする(送信する)

ご注意

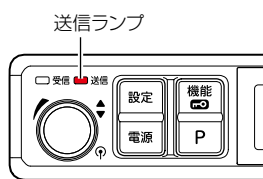
受信ランプが緑色に点灯しているときは、ほかに通話している無線局(同じ通話チャンネルで誰かが通話中)があります。

ほかの無線局が通話中は、送信しないでください。

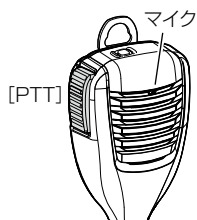
※呼び出しをするときは、受信ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。

[PTT]を押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

- [PTT]を押しているあいだは、送信ランプが赤色に点灯します。



送信ランプ



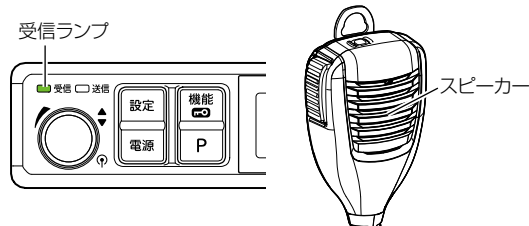
[PTT]

3. 呼び出しを受ける(受信する)

[PTT]をはなすと待ち受け状態になります。

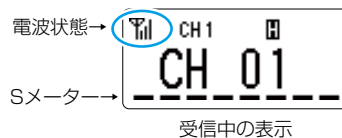
電波を受信中は、受信ランプが緑色に点灯して、受信している電波状態が表示されます。

待ち受け状態のときは、受信ランプが消灯しています。



受信ランプ

スピーカー



電波状態→

Sメーター→

受信中の表示

※ほかに通話している無線局(同じ通話チャンネルで誰かが通話中)の電波を受信しているときも、受信ランプが緑色に点灯し、電波状態が表示されます。

【応答するときは】

受信ランプが消灯し、待ち受け状態になってから、[PTT]を押します。

2 通話のしかた

■ 通話するときのアドバイス

1. マイクロホンの使いかた

◎マイクロホンと口元を約5cmはなし、普通の大きさの
声で通話してください。

マイクロホンに口を近づけすぎたり、大きな声を出し
たりすると、かえって相手に聞こえにくくなりますの
でご注意ください。

◎[PTT]を押すと、「ピッ」と鳴ります。

そのあとマイクロホンに向かって話してください。

※個別呼び出し機能が「ON」のときは、「ピピッ」と鳴
ります。(P.4-1)

2. 正しい通話方法

次の要領で通話をしてください。

用件は簡潔に話し、長い通話はさけてください。

【呼び出しをするとき】	【応答をするとき】
「相手局の呼び出し名称」	3回以下
「こちらは」	1回
「自局の呼び出し名称」	1回
「どうぞ」	1回

3. 通話範囲について

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信し
にくくなる場合があります。

※通話範囲であっても、山や建物などが障害物となって、
通話しにくくなる場合があります。

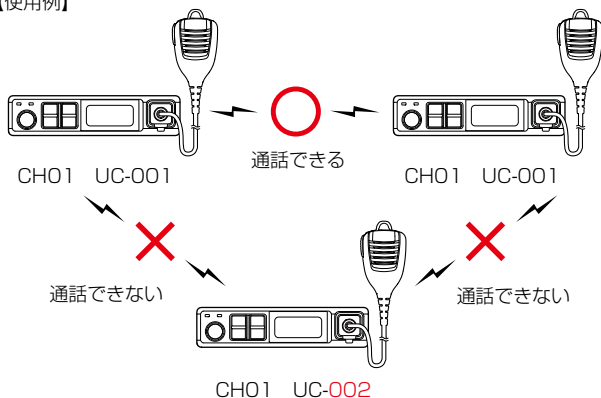
そのときは、場所を少し移動して通話してください。

また、テレビやラジオなどの家電製品、パソコン、およ
び電話機などの近くで使用すると、雑音が発生したり、
誤動作したりすることがありますので、はなれてご使
用ください。

3 簡単なグループ通話のしかた

複数の通話相手と同じユーザーコード(UC)を設定するだけで、通話グループが簡単に構成できます。
通話チャンネルとユーザーコードが一致したすべての相手と通話できます。

【使用例】



※秘話機能や個別呼び出し機能とも併用できます。

【ユーザーコードの設定について】

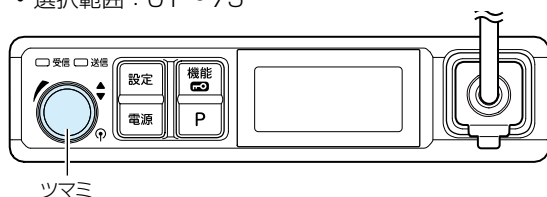
使用するユーザーコード(000～511)は、あらかじめお買い上げの販売店で設定されています。

グループ通話をするときは、選択した通話チャンネルに設定されたユーザーコードが通話相手と同じユーザーコードであることを確認してください。

■ ユーザーコードを設定して通話するには

1. 通話チャンネルを合わせる

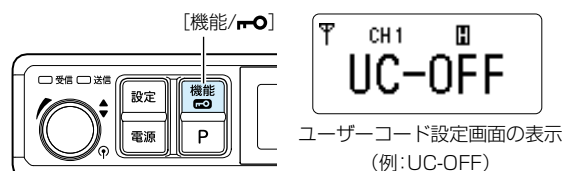
1. ツマミを押します。
 - 表示(例: CH1)が点滅します。
2. ツマミを回して相手と同じ通話チャンネルに合わせます。
 - 選択範囲: 01～75



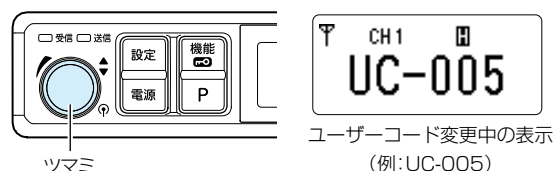
※通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを設定できるように設定されている場合、ここで選択した通話チャンネルで使用するユーザーコードだけが変更できます。

2. ユーザーコードを設定する

1. [機能/機能]を押します。
 - 「UC-OFF」が表示されます。



2. ツマミを回してユーザーコード(例: 005)を変更します。
 - 選択範囲: OFF(000)、001～511



※表示を切り替えてから、何も操作しない状態が10秒つづくと、通話チャンネル表示に戻ります。

※「UC-OFF」の場合、ユーザーコードを使用して通話する相手の音声は聞こえますが、自分の音声は、ユーザーコードを設定している相手には聞こえません。

3 簡単なグループ通話のしかた

■ ユーザーコードを設定して通話するには

3. 呼び出しをする(送信する)

ご注意

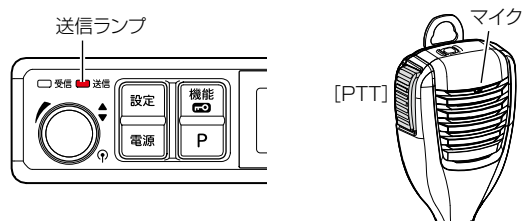
受信ランプが緑色に点灯しているときは、ほかに通話している無線局(同じ通話チャンネルでユーザーコードが異なる誰かが通話中)があります。

ほかの無線局が通話中は、送信しないでください。

※呼び出しをするときは、受信ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。

[PTT]を押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

- [PTT]を押しているあいだは、送信ランプが赤色に点灯します。

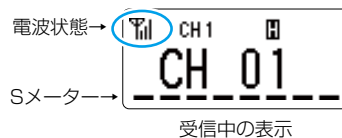
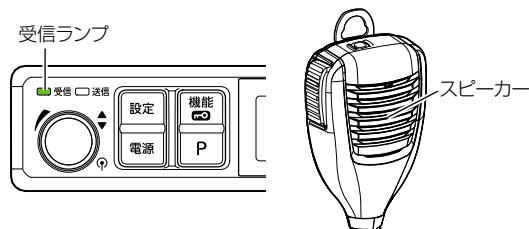


4. 呼び出しを受ける(受信する)

[PTT]をはなすと待ち受け状態になります。

電波を受信中は、受信ランプが緑色に点灯して、受信している電波状態が表示されます。

待ち受け状態のときは、受信ランプが消灯しています。



※ほかに通話している無線局(同じ通話チャンネルでユーザーコードが異なる誰かが通話中)の電波を受信しているときも、受信ランプが緑色に点灯し、電波状態が表示されます。

【応答するときは】

受信ランプが消灯し、待ち受け状態になってから、[PTT]を押します。

■ 個別呼び出しの種類について

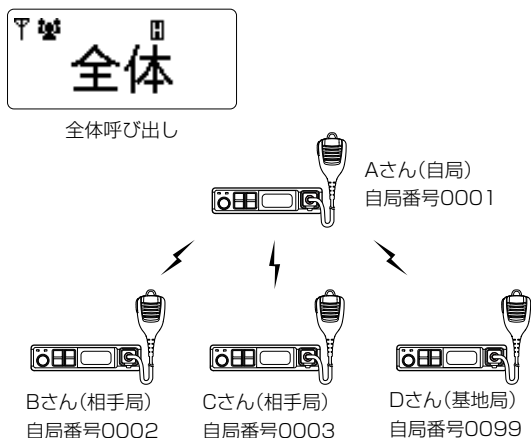
通話チャンネルとユーザーコードを一致させた状態で、さらに選択した相手を呼び出せる個別呼び出し機能は、次の4種類の呼び出しかたがあります。

- ◎全体呼び出し
- ◎基地局呼び出し
- ◎個別呼び出し
- ◎グループ呼び出し

※個別呼び出し機能を使用するには、お買い上げの販売店での設定が必要です。

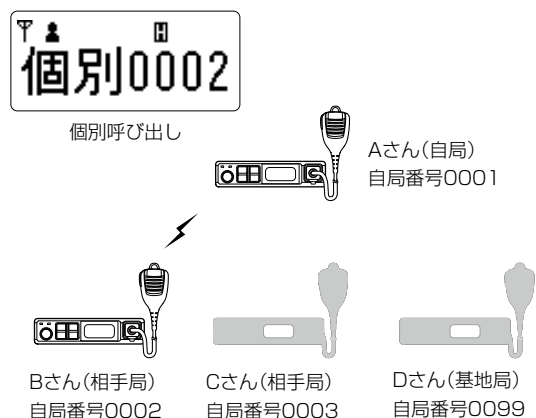
◎全体呼び出し

通話チャンネルとユーザーコードが同じ相手局(例:Bさん/Cさん/Dさん)を一斉に呼び出します。



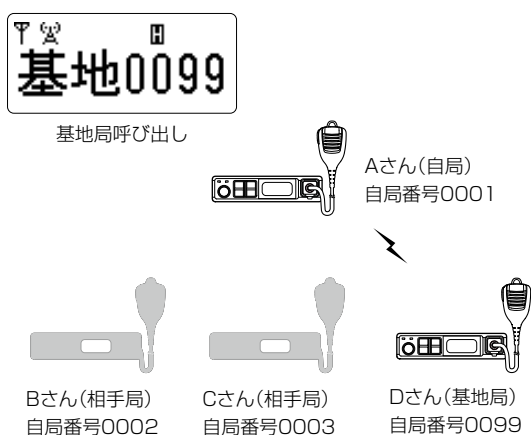
◎個別呼び出し

通話チャンネルとユーザーコードが同じで、呼び出す相手局(例:Bさん)の自局番号(例:0002)を指定して呼び出します。



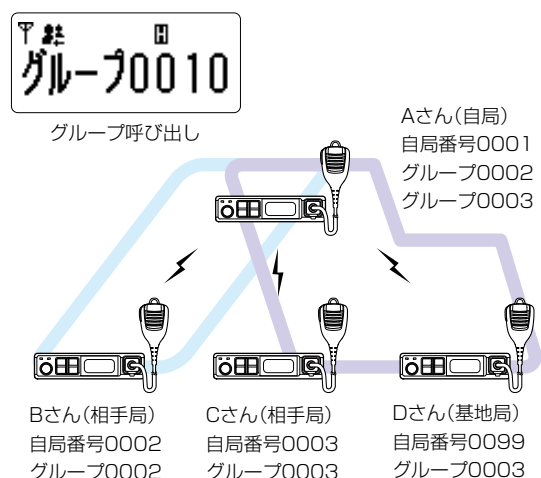
◎基地局呼び出し

通話チャンネルとユーザーコードが同じで、呼び出す基地局(例:Dさん)の自局番号(例:0099)を指定して呼び出します。



◎グループ呼び出し

通話チャンネルとユーザーコードが同じで、メンバー指定*されたグループ番号(例:グループ 0003)に所属するすべての相手(例:Cさん/Dさん)を呼び出します。



★同じグループ番号で、そのグループ番号にメンバー指定を設定している相手側だけが、送信局からの音声を聞けます。

※相手側でもメンバー指定の設定が必要です。

相手側でメンバー指定されていないグループ番号に呼び出しをしても、着信しません。

4 個別呼び出し機能による通話

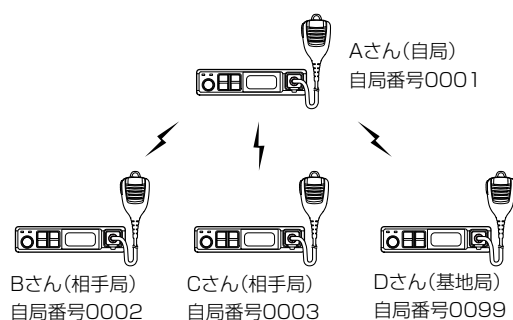
■ 個別呼び出し機能で通話するには

個別番号(相手の自局番号)やグループ番号を指定して相手局と通話する方法について、説明します。

※お買い上げの販売店で個別呼び出し機能が設定されているものとして説明します。

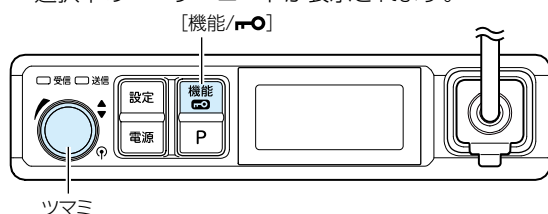
【Aさんから呼び出す場合の使用例】

通話チャンネル番号と、呼び出す相手(全体/基地/個別/グループ番号)を選択してから送信します。



1. 通話チャンネルを合わせる

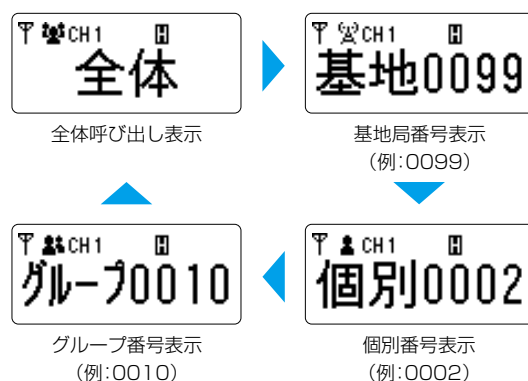
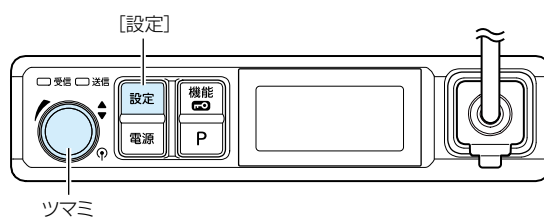
1. ツマミを押します。
 - 表示(例: CH1)が点滅します。
2. ツマミを回して相手と同じ通話チャンネルに合わせます。
 - 選択範囲: 01 ~ 75
3. [機能/]を押してユーザーコードを確認します。
 - 選択中のユーザーコードが表示されます。



※選択した通話チャンネルで表示されるユーザーコードと異なる相手とは、通話できません。

2. 全体/基地/個別/グループ番号の選択

1. [設定]を繰り返し押して呼び出し先を選択します。
 - 押すごとに「全体」→「基地局」→「個別」→「グループ」と切り替わります。
2. 「個別」、「グループ」選択時は、つまみを回して個別番号(相手の自局番号)、またはグループ番号に合わせます。



4 個別呼び出し機能による通話

■ 個別呼び出し機能で通話するには

3. 呼び出しをする(送信する)

ご注意

受信ランプが緑色に点灯しているときは、ほかに通話している無線局(同じ通話チャンネルで、ユーザーコードや個別番号が異なる誰かが通話中)があります。ほかの無線局が通話中は、送信しないでください。
※呼び出しをするときは、受信ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。

[PTT]を押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

- ・[PTT]を押しているあいだは、送信ランプが赤色に点灯します。



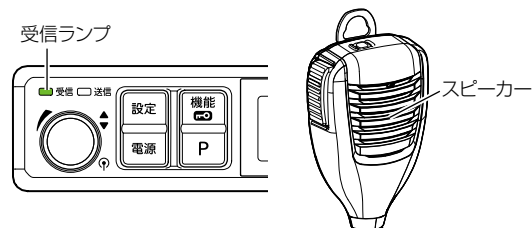
ご参考:相手局が通話圏内かどうかを確認するには
基地局、または個別番号を選択したあと、[PTT]を短く押します。
・通話圏内にいる場合、「ピッ」と鳴り、受信ランプが緑色に1回点滅します。
通話圏外など、相手に電波が届かない状態が5秒つづくと、基地局、または個別番号を選択したときの表示に戻ります。

4. 呼び出しを受ける(受信する)

[PTT]をはなすと待ち受け状態になります。

電波を受信中は、受信ランプが緑色に点灯して、受信している電波状態が表示されます。

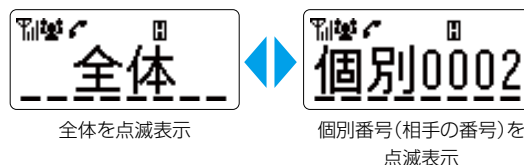
待ち受け状態のときは、受信ランプが消灯しています。



※ほかに通話している無線局(同じ通話チャンネルでユーザーコードが異なる誰かが通話中)の電波を受信しているときも、受信ランプが緑色に点灯し、電波状態が表示されます。

◎全体呼び出しを受けたとき

全体と個別番号が交互に点滅表示されます。



◎基地局呼び出しを受けたとき

基地局の番号(例:0099)が表示されます。



◎個別呼び出しを受けたとき

呼び出しをした相手の個別番号(例:0002)が表示されます。



◎グループ呼び出しを受けたとき

呼び出しをした相手の個別番号(例:0001)と、自局に設定しているグループ番号(例:0010)が表示されます。



【応答するときは】

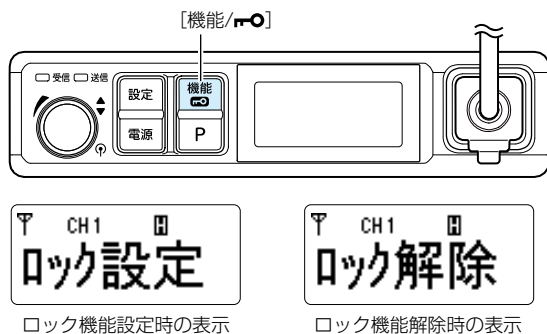
受信ランプが消灯し、待ち受け状態になってから、[PTT]を押します。

■ ロック機能

電源を入れなおしたり、不用意に、キーやツマミに触れたりしても、設定や表示が変わらないようにします。

【操作のしかた】

「ビピッ」と鳴るまで、[機能/]を長く押します。



※同じ操作をすると、解除できます。

〈ロック中にできる操作〉

- ◎ロック機能の解除
- ◎送信/受信の切り替え
- ◎電源のON/OFF
- ◎モニター機能のON/OFF
- ※エマージェンシー機能は、ロック中でも操作ができます。(P.5-9)
- ※ロック中でも音量を調整される場合は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■ 受信専用機能

無線機の通話チャンネルを受信専用で使用できます。

- ※「」表示された通話チャンネルでは、呼び出しや応答ができません。
- ※受信専用機能をご使用になるには、設定が必要です。設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。



■ モニター機能

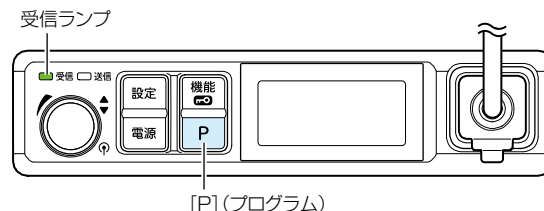
モニター機能は、次のような場合に使用します。

- ◎受信音がない状態で、「ザー」という音を聞きながら音量を調整するとき
- ◎ユーザーコード、個別番号、グループ番号が異なる他局の通話を聞くととき
- ※他局が秘話機能、または拡張秘話機能を使用している場合は、秘話処理された電子音が聞こえるだけです。

【操作のしかた】

[P]を押しているあいだ、動作します。

- 受信ランプが緑色に点灯します。
- ※[P]が、モニター機能以外の操作に割り当てられているときは、動作しません。

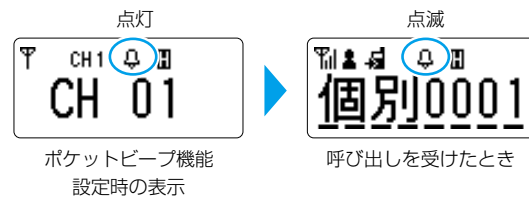


■ ポケットビープ機能

ユーザーコードや個別呼び出し機能が設定されている場合、使用できる機能です。

呼び出しを受けたとき、「」表示が点滅に変わります。同時に、ビープ音、またはメロディーでお知らせします。

※ポケットビープ機能をご使用になるには、設定が必要です。設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。



- ◎ユーザーコードと個別呼び出し機能を併用している場合も、基地局呼び出し、または個別呼び出しを受けると「」表示が点滅に変わります。
- ◎呼び出しを受けたとき、ビープ音、またはメロディーを停止するときは、[電源]や無線機本体のツマミ以外の操作で停止できます。
- ◎ポケットビープ機能が設定されていない状態で、基地局呼び出し、または個別呼び出しを受けたときは、ビープ音、またはメロディーは鳴らず、呼び出した相手の個別番号と、「」表示の点滅だけになります。

5 そのほかの機能について

■ 呼び出しメロディー機能

個別呼び出し、またはグループ呼び出しを受けたとき、Pベル機能、ポケットビープ機能、呼出着信音機能★の呼び出し音をメロディー(9種類)に設定できます。

◎ 呼び出しを受けたとき、メロディーを停止するとき、[電源]や無線機本体のツマミ以外の操作で停止できます。

★ 呼出着信音機能とは、個別番号(最大10局)、グループ番号(最大10局)で、異なる呼び出し音が設定できる機能です。

※ 呼び出しメロディー機能をご使用になるには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■ 着信表示

個別呼び出しを受けたとき、「」表示が点滅し、受信ランプが橙色に点滅します。

[設定]を押すと、点滅が停止します。

※ ご使用になるには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

■ 秘話機能

秘話機能を使用すると、ほかの相手に通話内容が傍受されるのを防止できます。

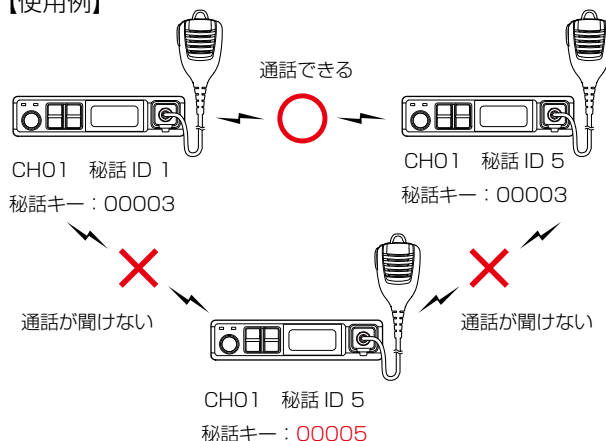
通話チャンネルと秘話IDに設定された秘話キーが一致した相手と通話できます。

また、秘密性を強化した拡張秘話機能もご用意しています。

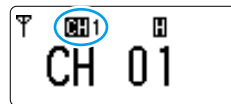
※ 秘話機能、拡張秘話機能をご使用になるには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【使用例】



◎ 秘話機能が設定されているときは、「」表示(CH表示が反転)になります。



秘話機能設定時の表示

◎ 秘話キーが同じ相手であれば、秘話IDが異なる場合でも通話できます。

◎ 自分と同じ秘話キーの相手局、または秘話機能を使用しない他局が送信した信号を受信すれば、音声が届きます。

◎ ユーザーコードや個別呼び出し機能による通話時も併用できます。

◎ 通話相手以外(同じ通話チャンネルで、異なる秘話キーを使用して通話している)の電波を受信しているときも、受信ランプが緑色に点灯し、電波状態が表示されます。

◎ 他局が自分と異なる秘話キーを使用している場合は、秘話処理された電子音が聞こえます。

◎ 機密を要する重要な通話にご使用になることは、おすすめできません。

また、無線機間の通話は、電波を使用している関係上、第三者による盗聴を完全に阻止できませんので、ご注意ください。

5 そのほかの機能について

■ ショートメッセージ機能

個別呼び出し機能で呼び出しをするとき、あらかじめ設定されたショートメッセージや音声データを送信できます。

※ショートメッセージや音声データを送信するには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

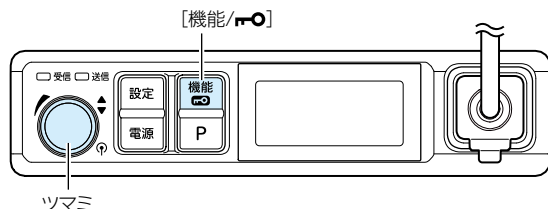
※ショートメッセージの受信だけに使用する場合は、個別呼び出し機能(P.4-2)が設定されていれば、受信できます。

【ショートメッセージの送りかた】

※受信したショートメッセージの確認方法は、「5.受信したショートメッセージの確認」で説明しています。(P.5-4)

1. 通話チャンネルを合わせる

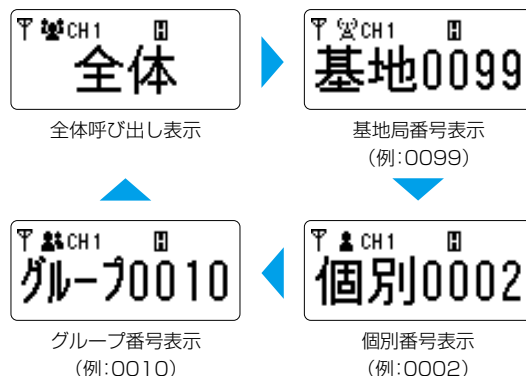
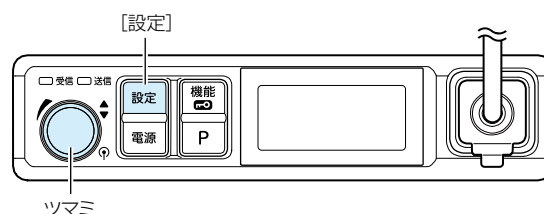
1. ツマミを押します。
 - 表示(例：CH1)が点滅します。
2. ツマミを回して相手と同じ通話チャンネルに合わせます。
 - 選択範囲：01～75
3. [機能/電源]を押してユーザーコードを確認します。
 - 選択中のユーザーコードが表示されます。



※選択した通話チャンネルで表示されるユーザーコードと異なる相手とは、通話できません。

2. 全体/基地/個別/グループ番号の選択

1. [設定]を繰り返し押して呼び出し先を選択します。
 - 押すごとに「全体」→「基地局」→「個別」→「グループ」と切り替わります。
2. 「個別」、「グループ」選択時は、つまミを回して相手の個別番号、またはグループ番号に合わせます。



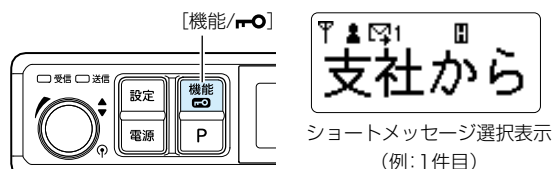
5 そのほかの機能について

■ ショートメッセージ機能

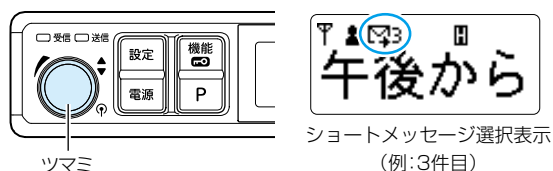
【ショートメッセージの送りかた】

3. ショートメッセージの選択

1. [機能/PTT]を繰り返し短く押して、「」(ショートメッセージ)表示を選択します。
 - ショートメッセージがスクロール表示されます。



2. ツマミを回してショートメッセージ(例: 3)を変更します。
 - 「」表示の右側に3件目を示す「3」が表示されます。



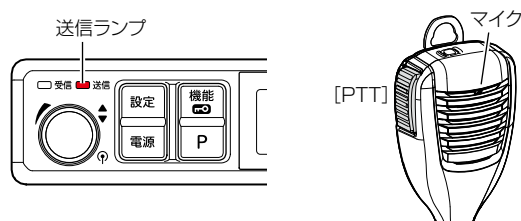
4. ショートメッセージを送る

ご注意

受信ランプが緑色に点灯しているときは、ほかに通話している無線局(同じ通話チャンネルで、ユーザーコードや個別番号が異なる誰かが通話中)があります。ほかの無線局が通話中は、送信しないでください。
※呼び出しをするときは、受信ランプが消灯していることを確認してから、送信してください。

メッセージの内容が表示された状態で[PTT]を押しながら、マイクに向かって、通話相手に呼びかけます。

- [PTT]を押しているあいだは、送信ランプが赤色に点灯します。
- 同時にメッセージが通話相手に送信されます。

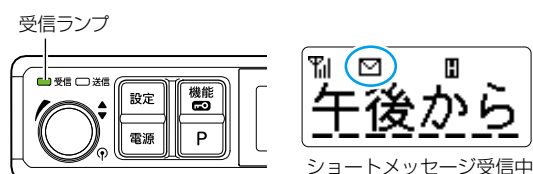


【メッセージを送りなおすには】

「3. ショートメッセージの選択」に戻って、メッセージを選択してから、呼び出しをしてください。

5. 受信したショートメッセージの確認

1. ショートメッセージ付きの個別呼び出しを受信すると、「」(ショートメッセージ受信)表示が表示され、メッセージがスクロール表示されます。



2. [機能/PTT]を押すと、再度スクロール表示されるのでメッセージの内容を確認できます。

※このとき[PTT]を押しても送信しません。

5 そのほかの機能について

■ 拡声器機能

[P]に拡声器機能が割り当てられているとき、本製品を拡声器として使用できます。

※[P]の割り当ては、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※拡声器機能をお使いになるときは、必ず外部スピーカー(別売品:SP-30、SP-35/L/H)を無線機に接続してください。

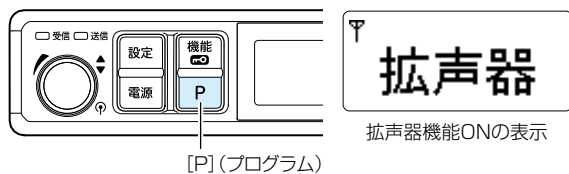
※拡声器機能がONの状態で、自局宛ての呼び出しを受信したときは、拡声器機能が解除され、通常の通話ができます。

外部スピーカーの設定は、呼び出しを受信したとき、相手の音声が無線機に接続されたマイクロホンから聞けるように、設定モードの「スピーカー出力」項目から、設定を「全て」、または「HM」に変更してください。(P.8-3)

【操作のしかた】

本書では、[P]を長く押したとき、動作するように割り当てられているものとして説明します。

1. [P]を長く押します。
 - 「拡声器」が表示されます。



※拡声器機能OFFのときは、受信音量を調整できます。拡声器機能ONのときは、拡声器音量を調整できます。

調整のしかたは、本製品の簡易取扱説明書をご覧ください。

2. [PTT]を押しながら、マイクロホンに向かって話します。
 - 外部スピーカーから、音声が出力されます。

※音声は、送信されません。
3. 無線で呼び出したい場合は、[P]を長く押します。
 - 拡声器機能が解除されます。

※拡声器機能の使用中は、呼び出しができません。

5 そのほかの機能について

■ 発着信履歴機能

個別呼び出し、およびグループ呼び出しを送受信したとき、個別番号(相手の自局番号)やグループ番号、ショートメッセージや相手の位置情報が記憶されます。

記憶された個別番号は、呼び出しに利用できます。

※発着信履歴機能をご使用になるには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【発着信履歴を使用して、呼び出しをするには】

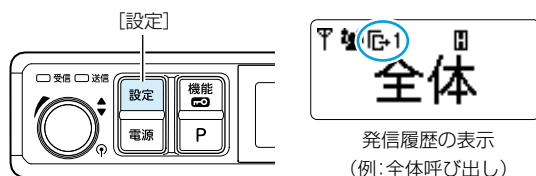
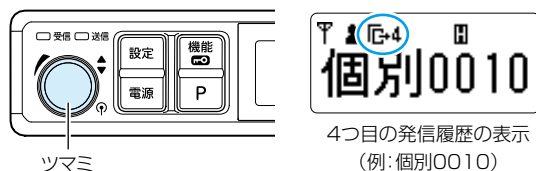
1. 「設定」を繰り返し短く押して、「

図1: 設定ボタンの位置と履歴表示画面の例。左側の写真では、装置の前面パネルに「設定」ボタンが示されています。右側の画面表示では、「履歴」アイコンが選択され、「全体」と表示されています。下部には「発信履歴の表示 (例: 全体呼び出し)」と記載されています。

2. 発信履歴、または着信履歴が2件以上の場合は、ツマミを回して選択します。
※1から順に最新の履歴として記憶されています。



3. 呼び出す相手の履歴を選択した状態で、[PTT]を押しながら、相手に呼びかけます。
 - 送信ランプが赤色に点灯します。

【発着信履歴件数と履歴の消去について】

◎発信履歴、着信履歴を各10件まで記憶できます。

10件を超えると、古い履歴から削除されます。

◎全体呼び出しの場合は、着信履歴を記憶しません。

◎発信履歴の消去は、設定モードからできます。

(P.8-2)

【発着信履歴の内容や件数に異常があるときは】

設定モードの「発着信履歴消去」項目から履歴を消去してください。(P.8-2)

それでも改善しない場合は、お買い上げの販売店にユーザーリセットをご依頼ください。

【発着信履歴からショートメッセージを確認するには】

コマンドマイク(別売品:HM-253)使用時、発着信履歴からショートメッセージを確認できます。

1. コマンドマイクの「履歴」を繰り返し短く押して、「着信履歴」、または「発信履歴」を選択します。
※設定されていない場合や履歴がない場合は、選択できません。
※履歴が2件以上ある場合は、[▲]/[▼]を押して選択します。
2. 「決定」を押します。
 - ショートメッセージが表示されます。
※[PTT]を押すと呼び出せます。
※履歴に登録されたショートメッセージは、送れません。

5 そのほかの機能について

■ 発信履歴機能

【発信履歴からGPS情報の送信時間を確認するには】

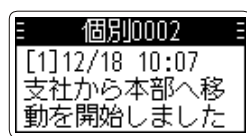
コマンドマイク(別売品:HM-253)とGPSユニット(別売品:UX-267)使用時、発信履歴から送信した日時を確認できます。

1. [履歴]を繰り返し短く押して、「発信履歴」を選択します。
※設定されていない場合や履歴がない場合は、選択できません。
※発信履歴が2件以上ある場合は、[▲]/[▼]を押して選択します。



発信履歴表示を選択
(例: 個別0002)

2. [決定]を押します。
 - GPS情報を送信した時刻が表示されます。※GPS衛星からの信号を測位できない状態で送信したときは、時刻は履歴として表示できません。
※ショートメッセージと併せて送信したときの履歴では、その内容も確認できます。



送信時の日時と送信ショートメッセージの発信履歴(表示例)

【着信履歴からGPS情報を確認するには】

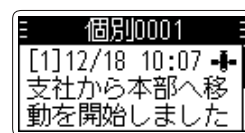
コマンドマイク(別売品:HM-253)とGPSユニット(別売品:UX-267)使用時、着信履歴から受信した日時を確認できます。

1. [履歴]を繰り返し短く押して、「着信履歴」を選択します。
※設定されていない場合や履歴がない場合は、選択できません。
※着信履歴が2件以上ある場合は、[▲]/[▼]を押して選択します。



着信履歴表示を選択
(例: 個別0001)

2. [決定]を押します。
 - GPS情報を受信した時刻が表示されます。※ショートメッセージと併せて受信したときの履歴では、その内容も表示されます。

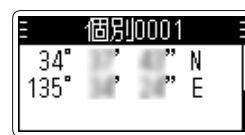


受信時の日時と受信したショートメッセージの着信履歴(表示例)

3. GPS情報が表示されるまで、[▼]を繰り返し押します。



相手との距離と方位の表示例

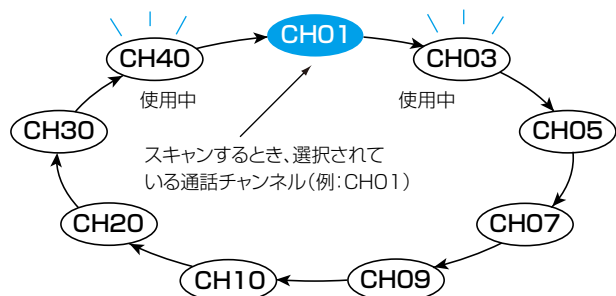


相手の緯度と経度の表示例

5 そのほかの機能について

■ メモリーチャンネルスキャン機能

通話チャンネルを自動で切り替えて、使用中の通話チャンネルを探し出す機能です。



○ は、スキャンの対象に設定された通話チャンネル

※スキャン対象外の通話チャンネル(例:CH01)が選択されている状態でスキャンを開始させたときは、その通話チャンネルも含めてスキャンします。

※[P]にメモリーチャンネルスキャン機能が割り当てられているとき、使用できます。

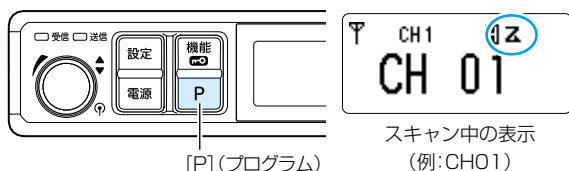
[P]の割り当てと、スキャンの対象にするチャンネル設定をお買い上げの販売店にご依頼ください。

※本書では、[P]を長く押したとき、動作するように割り当てられているものとして説明します。

【操作のしかた】

[P]を長く押します。

- 「Z」表示が点滅し、スキャンを開始します。



【メモリーチャンネルスキャンを解除するには】

[P]を長く押します。

- スキャンをする直前に選択されていた通話チャンネルが表示されます。

※電源を入れなおしても、スキャンは解除されません。

※コマンドマイク使用時は、[決定]を押しても解除します。

【メモリーチャンネルスキャンの動作について】

◎スキャンの対象に設定された通話チャンネルが1件だけで、その通話チャンネルと同じ番号を選択しているときは、スキャンしません。

◎スキャン中に緊急呼び出しなど、送信をすると、スキャン動作を解除して、スキャンをする直前に選択されていた通話チャンネルで呼び出しをします。

◎スキャン中は、個別呼び出しや緊急呼び出しを正しく受信できないことがあります。

◎受信状態が10秒つづいたら、スキャンを再開します。

10秒経過するまでに信号がなくなり、その状態が5秒つづいたら、スキャンを再開します。

スキャン停止時間と再開時間の設定変更については、お買い上げの販売店にご依頼ください。

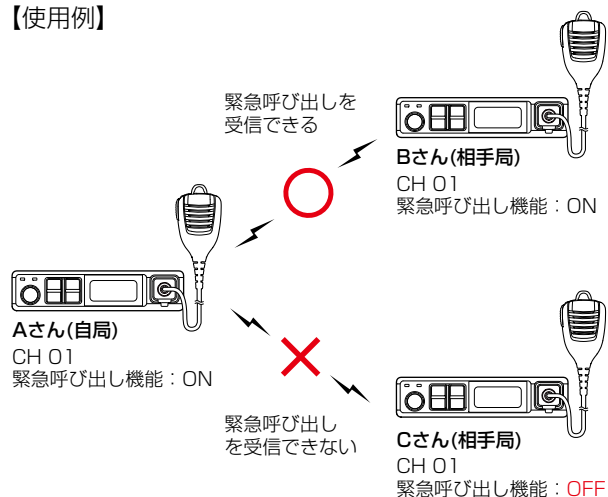
5 そのほかの機能について

■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)

迅速な連絡が必要な場合、自分と同じ通話チャンネルで緊急呼び出し機能が設定された相手に、緊急表示と警告音で通知できます。

※ 緊急呼び出し機能をご使用になるには、設定が必要です。
設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【使用例】



△ 警告

緊急呼び出し機能(エマージェンシー)は、大きな音量の警告音が連続で鳴ります。
適切な音量になっていることを確認してください。

【緊急呼び出し機能を正しく使用するには】

緊急呼び出し機能は、送信側と受信側の無線機に設定されているとき、使用できる機能です。

送信側と受信側の両方に設定されていないときは、緊急呼び出しの送信や受信、応答ができません。

※ 緊急呼び出しをする無線機には、下記どちらかのマイクロホンを接続する必要があります。

◎ コマンドマイク(別売品: HM-253)

◎ 防水スピーカーマイクロホン(別売品: HM-254)

※ 個別呼び出し機能が設定されていない無線機から、個別呼び出し機能が設定されている無線機へ緊急呼び出しはできません。

緊急呼び出し機能を使用するときは、送信側と受信側の両方に個別呼び出し機能を設定してください。

下記のような場合、正しく設定されていても緊急呼び出しが通知されなかったり、通知されても警告音が鳴らなかったりすることがあります。

◎ 音量が最小に設定されている場合

◎ 警告音を鳴らさない設定がされている場合

◎ 電波状況の悪化により電波が届かない場合

◎ メモリーチャンネルスキャン機能が動作中の場合

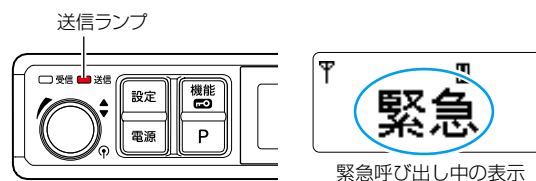
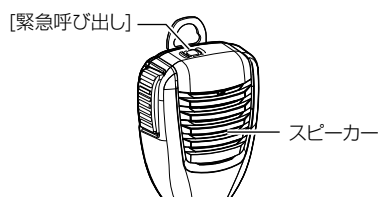
【緊急呼び出しのしかた】

下記の操作をすると、個別呼び出し機能が設定された自分と同じ通話チャンネルの相手へ一斉に緊急呼び出しします。

※ 緊急呼び出しに使用する通話チャンネルが、あらかじめ指定されていない場合は、緊急呼び出しの前に、緊急呼び出しをする相手と同じ通話チャンネル番号を選択してください。

1. 「緊急」と表示されるまで、マイクロホンの[緊急呼び出し]を長く(5秒以上)押します。

- 「緊急」表示の点滅と同時に、警告音が「ピピピ…」と鳴って、一定の間隔ごとに送信ランプが赤色に点灯します。



2. その状態で、相手局から応答があるのを待ちます。

- 応答があると、「緊急」表示が消え、受信ランプが緑色に点灯します。

※ 応答がない場合は、電源を切ると緊急呼び出しが停止します。

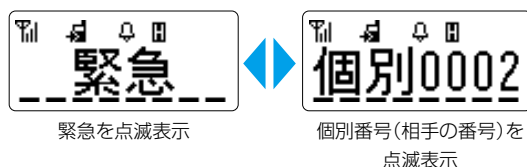
3. 通話をつづけます。

- 何も操作しない状態が5秒つづくと、終話して、緊急呼び出しをする前の状態に戻ります。

【緊急呼び出しを受けたときは】

1. 警告音が「ピピピ…」と鳴って、送信ランプが赤色に点滅します。

- 「緊急」と「相手局番号」が交互に表示されます。



2. [PTT]を押して、応答します。

- 応答すると、「相手局番号」表示に変わり、警告音が停止します。

※ 応答しない場合は、電源を切ると緊急呼び出しが停止します。

3. 通話をつづけます。

- 何も操作しない状態が5秒つづくと、終話して、緊急呼び出しをする前の状態に戻ります。

5 そのほかの機能について

■ 録音/再生機能

コマンドマイク(別売品:HM-253)使用時の機能です。
送信したときの通話、および自局宛ての通話を自動録音、
および再生できます。

※録音された最新の内容(初期設定では最大2分30秒の
録音)は、録音履歴を消去するまで、保持されます。
2分30秒を超えた内容は、その時点で1番古い録音内
容を消去しながら録音されます。

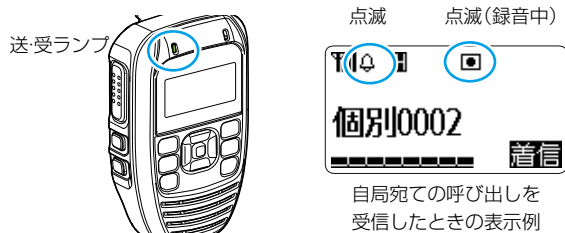
※設定を変更すれば、最大5分間録音できます。

※録音/再生機能の使用、および設定モードから録音履歴
を消去できるようにするには、設定が必要です。
設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

1. 呼び出しを受ける(録音開始)

自局宛ての通話を受信すると、自動で録音を開始します。

- コマンドマイクの送・受ランプが緑色に点灯すると同
時に、「」(録音中)表示が点滅します。
- ※自局から呼び出しをした場合でも、呼び出しを受けたと
きと同様に、「」表示が点滅して、自動で録音を開始
します。



2. 応答する(録音継続)

1. 送・受ランプが消灯し、待ち受け状態を確認します。
• 「」(録音中)表示は、点滅をつづけます。
2. [PTT]を押しながら、マイクに向かって、通話相手
に応答します。
• 送・受ランプが赤色に点灯し、「」(録音中)表示は、
点滅をつづけます。



3. 終話する(録音終了)

通話が終わったら、[PTT]をはなします。

- 送・受ランプが消灯します。
その後、何も操作しない状態が5秒つづくと、「」表
示が消灯し、「」(録音データあり)が表示されます。



【録音/再生機能の動作について】

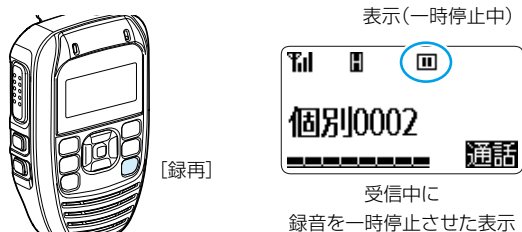
- ◎送信したときの通話、および自局宛ての通話を受信す
ると自動で録音を開始します。
※個別呼び出し機能を使用時、他局間の通話や呼び出
しの音声は出力されますが、録音されません。
- ◎ユーザーコードや個別番号が一致しない場合など、音
声が出力されない通信は、録音されません。
そのとき、再生中の場合は、再生をつづけます。
- ◎終話するまでの通話を1件として録音します。
録音を一時停止をすると、送信中や受信中に再開して
も、別の1件として録音されます。
- ◎録音時間の合計が5分を超えた場合には、その時点で
1番古い録音内容を消去しながら録音されます。
録音件数は、録音時間の合計が5分以内であれば、最大
30件です。
- ◎再生中に自局宛の呼び出しを受信した場合は、再生が
停止されると同時に受信音声出力され、録音を開始
します。
- ◎緊急呼び出しを送信、または受信したとき、警告音が
「ピピピ…」と鳴っているあいだは、「」(録音中)表
示が点滅していますが、録音はされません。
応答されたら、録音を開始します。

5 そのほかの機能について

■ 録音/再生機能

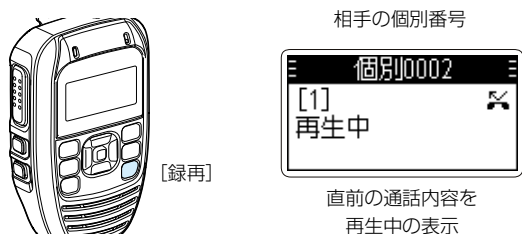
【録音を一時停止するには】

待ち受け中や送信中、または受信中でも、[録再]を短く押すごとに、録音一時停止と再開が切り替わります。



【直前に録音された内容を再生するには】

1. 通話チャンネル画面で、[録再]を長く押します。
 - 再生が開始されます。



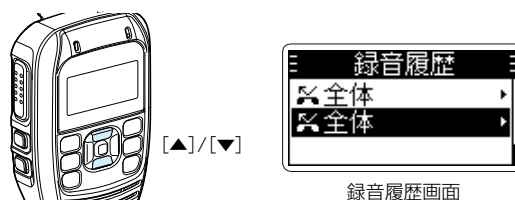
2. 再生する前の表示に戻すときは、[戻る]を押します。

【録音履歴から再生するには】

1. [履歴]を繰り返し短く押して、「録音履歴」を選択します。
 - ※設定によっては、「着信履歴」→「発信履歴」→「録音履歴」の順に切り替わります。
 - ※設定されていない場合や履歴がない場合は、選択できません。



2. 録音履歴が2件以上の場合は、[▲]/[▼]を押して選択します。
 - ※上から順に最新の履歴として記憶されています。



3. [決定]を押します。
 - 再生が開始されます。
4. 再生する前の表示に戻すときは、[戻る]を押します。

【録音時のアイコンについて】

-  : 自局宛ての着信に応答して、終話するまでの通話
-  : 自局宛ての着信に応答せず終話した場合
-  : 自局から呼び出しをして、終話するまでの通話

5 そのほかの機能について

■ GPS機能

自局の位置情報(緯度/経度)を表示したり、相手局に自局の位置情報を送信したりできる機能です。

相手局の位置情報を受信したときは、相手局の方向と距離を表示できます。

※GPS機能をご使用になるには、送信側と受信側の無線機に設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

※GPSユニット(別売品：UX-267)を無線機に接続すると、移動場所に応じた自局位置情報の表示や送信、時刻表示などができます。

また、お買い上げの販売店で自局位置情報が設定されている場合は、GPSユニットを接続しなくても位置情報の表示や送信はできます。

※無線機本体の「

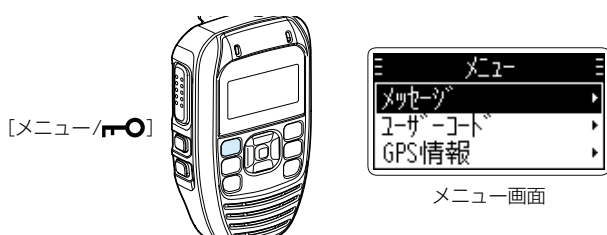
点滅している状態では、位置情報の表示や送信、発着信履歴使用時の時刻表示ができません。

※本製品が設置されている場所や建物の周辺環境によって、GPS衛星からの信号を測位できない場合があります。

※位置管理システムなどのマッピングには対応していません。

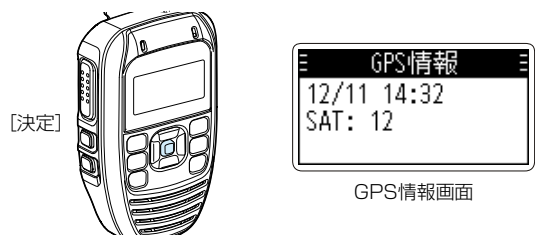
※本書では、コマンドマイク使用時の操作を説明します。

【自局の位置情報を確認するには】

1. 無線機本体の「

メニュー画面

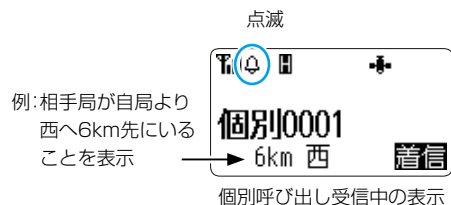
3. [▲]/[▼]を押して、GPS情報を選択します。
4. [決定]を押します。
 - 測位日時と追尾衛星数(表示例 SAT:12)が表示されます。



5. [▼]を押すと、緯度と経度が表示されます。
6. 待ち受けの表示に戻すときは、[戻る]を2回押します。

【相手局から位置情報を受信したときの表示】

GPS機能が設定されているとき、相手局の位置情報を受信すると、相手局の距離と方位が表示されます。



※発着信履歴機能が設定されているときは、着信履歴から、相手局の位置情報を確認できます。(P.5-7)

【自局の位置情報を送信するには】

無線機本体の「

- [PTT]を押しているあいだは、コマンドマイクの送・受ランプが赤色に点灯します。同時に、自局情報が通話相手に送信されます。

送信時のご注意

[PTT]を押すと、位置情報の送出後に音声を送信されます。

※送信モニタービーブ機能(P.5-13)が設定されている場合、「ブプッ」と送信モニターが鳴ってから、呼びかけてください。

5 そのほかの機能について

■ 送信出力の切り替え機能

無線機の送信出力を切り替えできる機能です。

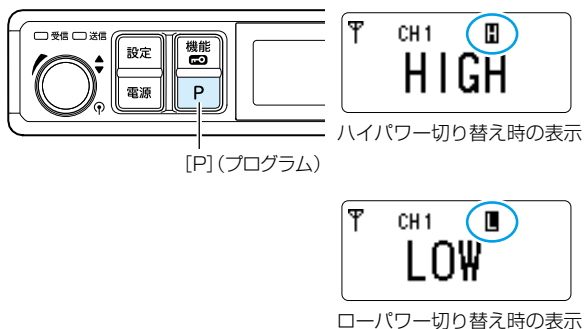
※送信出力の切り替え機能をご使用になるには、設定が必要です。

設定は、お買い上げの販売店にご依頼ください。

【操作のしかた】

「ピピッ」と鳴るまで、[P]を短く押します。

※短く押すごとに、ハイパワー(5W)とローパワー(1W)が切り替わります。



■ 設定が必要な機能について

以下は、お買い上げの販売店にて設定を変更することで、お使いいただける機能の一覧です。

設定変更、および使用方法については、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

- Pベル機能
- ポケットビープ機能
- 送信モニタービープ機能
- 終話信号受信ビープ機能
- 秘話機能
- 拡張秘話機能
- 送信出力切り替え機能
- チャンネル番号音声案内機能
- ノイズキャンセル機能
- イコライザー機能
- VOX機能
- 個別呼び出し機能(P.4-1)
- 終話後表示機能
- 発信履歴消去機能
- キーロック時の音量操作機能
- オートキーロック機能
- スキャン機能
- サブチャンネルPTT機能(P.7-1)
- ワンタッチアンサー機能
- 一時音量切り替え機能
- 録音再生機能
- 自動チャンネル切り替え機能
- スピーカー出力機能
- Sメーター表示機能
- RFアッテネーター機能
- バックライト機能
- GPS機能
- Bluetooth機能(P.6-1)
- 緊急呼び出し機能(P.5-9)
- ショートメッセージ機能(P.5-3)

◎本製品のBluetooth機能を有効にすると、Bluetooth対応機器と接続できます。

※この機能を使用する場合は、設定モードでの設定が必要です。(P.8-1)

※2025年1月現在、動作確認済みの弊社製Bluetooth機器は、VS-3(別売品)です。

本製品とVS-3をBluetoothで接続すると、VS-3から送受信できます。

◎Bluetoothの通信範囲は、約10m(目安)です。

◎本製品に登録できるBluetooth機器は2台です。

Bluetoothの通信においては、Bluetooth機器と本製品の距離をできるだけ近づけ、障害物がない状態にしてください。

電子レンジや無線LAN、ほかのBluetooth機器による電波干渉がある場合は、それらの位置を変更するか、必要に応じて一時的に使用を中止してください。

Bluetooth部の仕様

◎適応規格 : Bluetooth Ver. 5.2準拠

◎送信出力 : Class 1

◎対応プロファイル : HFP (Ver.1.8)

ペアリング/接続のしかた

ペアリング(接続の認証)とは、Bluetooth機器をお互いに登録し、接続を許可するためのものです。

一度ペアリングしたBluetooth機器とは、それ以降ペアリングする必要はありません。

本体側の電源をONにするとBluetooth機器と接続され、OFFにすると切断されます。

※本書では、VS-3を例に説明しています。

ご注意

◎本製品と接続する機器は、Bluetooth SIGの定めるBluetooth標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。

また、Bluetooth標準規格に適合していても、機器の仕様や設定により、本製品と接続できないことがあります。

◎複数のBluetooth機器がある場所では、ペアリングしたいBluetooth機器が検出されないことがあります。このような場合は、必要なBluetooth機器だけになるように、使用しないBluetooth機器の使用を停止、またはほかのBluetooth機器からはなれるなどしてください。

◎電源を切るなどして、Bluetooth接続を切断した場合は、無線機本体側のスピーカーから音が出るように切り替わります。無線機本体側の音量の上げすぎにご注意ください。

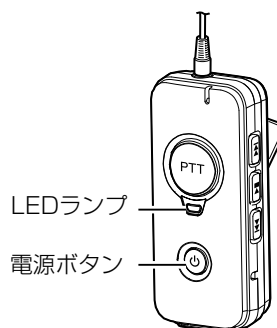
1. VS-3をペアリングモードにする

1. 電源OFF時、LEDランプが赤/青交互に点滅するまで、VS-3の電源ボタンを長く(約6秒)押します。
2. 数秒後、「ピパ」*と鳴って、LEDランプが赤/青交互に点滅するのを確認してから、ボタンから手をはなします。

※はじめてVS-3をご使用になる場合やVS-3のペアリングリストを初期化したあとは、電源を入れるだけでペアリングモードになります。

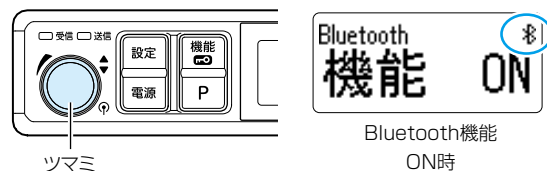
※ペアリングする機器がない状態が5分つづくと、ペアリングモードが解除され、さらに5分経過すると、電源が切れます。

★VS-3に接続しているイヤホンから音が鳴ります。



2. Bluetooth機能をONにする

1. 本製品の電源を切った状態で、[P]を押しながら、[電源]を押しつづけます。
2. 「設定」と表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。
 - ・設定項目が表示されます。
 - ※設定モードを解除するまで通話できません。
3. [機能/🔊]、または[P]を押して、「Bluetooth」を選択します。
4. ツマミを回して、「ON」にします。
 - ・「🔊」(Bluetooth機能ON)が表示されます。



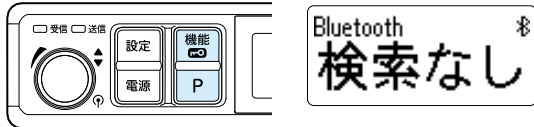
5. 設定モードのまま、次の「3.本製品からVS-3をペアリングする」を操作します。

6 Bluetooth機能

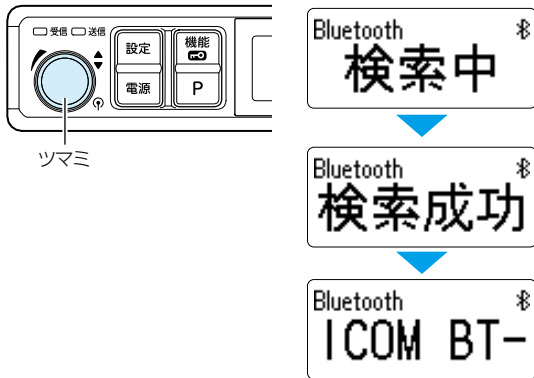
■ ペアリング/接続のしかた

3.本製品からVS-3をペアリングする

1. [機能/🔊], または [P] を押して、「Bluetooth 検索なし」を選択します。



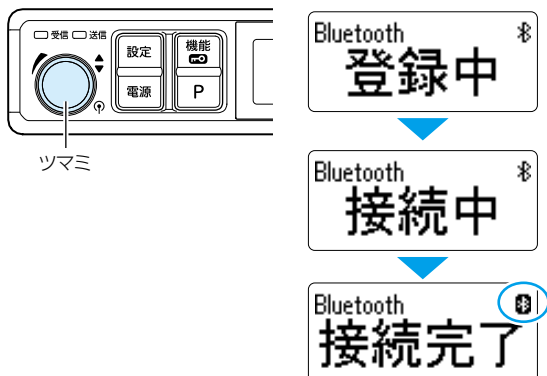
2. ツマミを押します。
 - ・「検索中」が表示されます。
 - ・「検索成功」が表示され、約1秒後に検索結果が表示されます。



※「検索失敗」が表示された場合は、VS-3がペアリングモードになっているか確認して、もう一度、検索してください。

※再度検索したい場合は、ツマミを回して、「再検索」を選択し、ツマミを押してもう一度、検索してください。

3. ツマミを押します。
 - ・「登録中」、「接続中」、「接続完了」の順に表示されます。
 - ・🔗 (Bluetooth機能 接続中)が表示されます。



※「ペアリング失敗」が表示された場合は、VS-3がペアリングモードになっているか確認して、もう一度、手順3のツマミを回して接続機器の選択から操作してください。

4. [PTT]を押します。
 - ・設定モードが解除され、チャンネル表示に戻ります。

【ペアリング後の動作について】

一度ペアリングしたBluetooth機器とは、それ以降ペアリングする必要はありません。

下記の条件を満たしている場合、自動で接続します。

- 無線機のBluetooth機能が「ON」
- 無線機が待ち受け状態
- Bluetooth機器の電源が「ON」

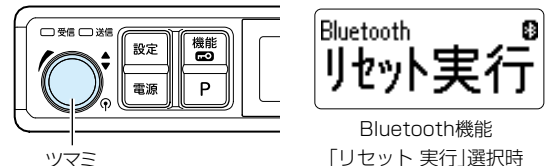
※接続中は🔗が点滅します。

接続が完了すると🔗が点灯します。

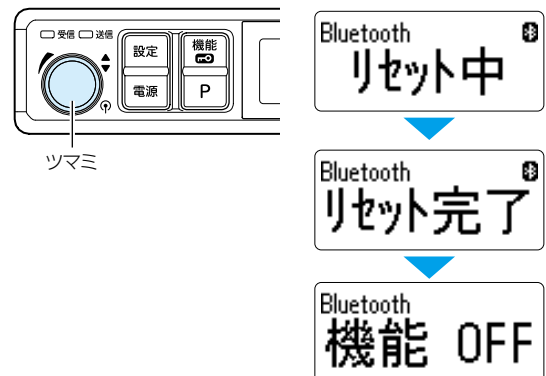
■ Bluetoothの初期化

正しく動作しないと思われた場合は、下記の手順で本製品のBluetoothの初期化をしてください。

1. 本製品の電源を切った状態で、[P]を押しながら、「電源」を押しつづけます。
2. 「設定」と表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。
 - ・設定項目が表示されます。
 - ※設定モードを解除するまで通話できません。
3. [機能/🔊], または [P]を押して、「Bluetooth リセット」を選択します。
4. ツマミを回して、「リセット 実行」にします。



5. ツマミを押します。
 - ・「リセット中」、「リセット完了」が表示され、初期化が実行されます。
 - ・「Bluetooth 機能 OFF」表示に戻ると初期化完了です。



※ツマミを押さずに電源を切った場合は、Bluetooth機器の情報は初期化されません。

6 Bluetooth機能

■ Bluetoothの設定項目一覧

設定モードでBluetooth機能を有効にすると、関連する設定項目が表示されます。

項目名/初期値	説明	画面
Bluetooth 検索なし	Bluetooth機能対応ヘッドセットを検索し、ペアリングします。	Bluetooth 検索なし
ペアリング 機器なし	ペアリング済み機器一覧が表示されます。	ペアリング済み機器なし
解除 機器なし	ペアリング済み機器一覧から削除します。	解除済み機器なし
Bluetooth 音量連動	接続しているBluetooth機器の音量を、本製品と連動させるか固定させるかの設定です。	Bluetooth 音量連動
Bluetooth セーブ OFF	接続しているBluetooth機器のパワーセーブ機能を設定します。	Bluetooth セーブ OFF
Bluetooth ワンタッチ OFF	VS-3の[PTT]を短く押すごとに送信と受信を切り替える機能を設定します。	Bluetooth ワンタッチ OFF
Bluetoothマイク HS+本体	Bluetooth接続時、無線機や別売品の外部機器のPTT操作とマイクを制限するときに設定します。 ※初期設定の「HS+本体」では、Bluetoothヘッドセット、および別売品のPTT操作とマイクが有効になっています。	Bluetoothマイク HS+本体
Bluetooth AF HS	Bluetooth接続時、無線機や別売品の外部機器のスピーカーを制限するときに設定します。 ※初期設定の「HS」では、Bluetooth機器のイヤホンだけを使用するようになっています。	Bluetooth AF HS
Bluetooth MCLV 0	Bluetooth機器のマイクゲインをスピーカーマイクからのオフセット(−13〜+15)で設定します。	Bluetooth MCLV 0
Bluetooth AFLV +8	Bluetooth機器の音量を本体出力からのオフセット(0〜+12)で設定します。	Bluetooth AFLV +8
Bluetooth リセット ---	「実行」を選択して、ツマミを押すと、Bluetoothの全設定を初期化します。	Bluetooth リセット ---

■ サブチャンネルPTT機能とは

コマンドマイク(別売品:HM-253)使用時の機能です。
サブチャンネルPTT機能とは、コマンドマイクの[サイド1]、
[サイド2]にサブチャンネルを割り当てることで、チャンネル
切り替え操作をしないで最大3チャンネル間で送受信が
できる機能です。

※送信できるキーが最大3つになります。

※サブチャンネルPTT機能と併用できない機能が設定され
ている場合、サブチャンネルPTT機能が使用できません。
詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

【使用例】

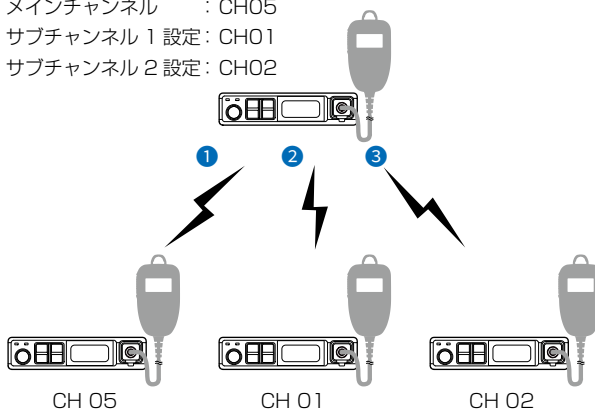


自局の設定

メインチャンネル : CH05

サブチャンネル 1 設定: CH01

サブチャンネル 2 設定: CH02



■ サブチャンネルを設定する

コマンドマイクの[サイド1]、[サイド2]にあらかじめ設
定されているものとして説明します。

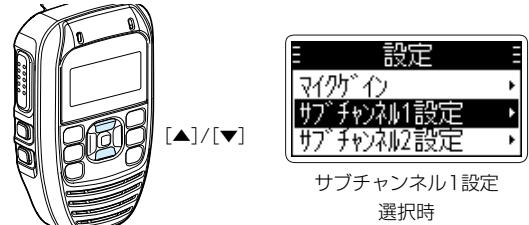
設定は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

1. 設定モードにする

1. 本製品の電源を切った状態で、本製品の[P]を押しながら、[電源]を押しつづけます。
 2. 「設定」と表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。
 - 設定項目が表示されます。
- ※設定モードを解除するまで通話できません。

2. 送信チャンネルを割り当てる

1. コマンドマイクの[▲]/[▼]を押して、「サブチャンネル1設定」、「サブチャンネル2設定」を選択します。

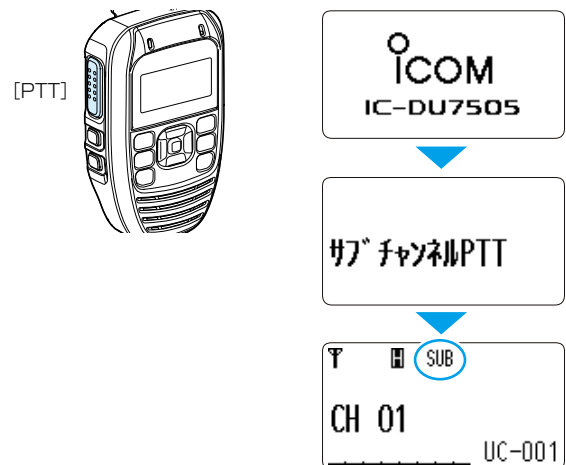


2. [決定]を押します。
 - チャンネル一覧が表示されます。
 3. [▲]/[▼]を押して、割り当てるチャンネルを選択し[決定]を押します。
 - 設定範囲: CH01 ~ CH75
- ※サブチャンネルを変更したい場合は、同様の手順で残りのサブチャンネルも変更します。

3. 変更を適用する

[PTT]を押して、変更を適用します。

- 無線機が再起動後、「SUB」が表示され、サブチャンネルPTT機能が使用できるようになります。



※設定値を変更後に電源を切った場合でも、設定値が確定されます。

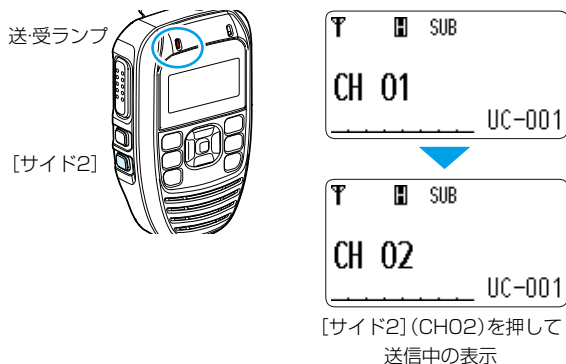
※設定モードを解除するまで通話できません。

7 サブチャンネルPTT機能

■ サブチャンネルで送信する

[サイド1]、または[サイド2]を押しつづけると、割り当てられたメモリーチャンネルで送信します。

※通話のしかたについては、4-2ページをご覧ください。



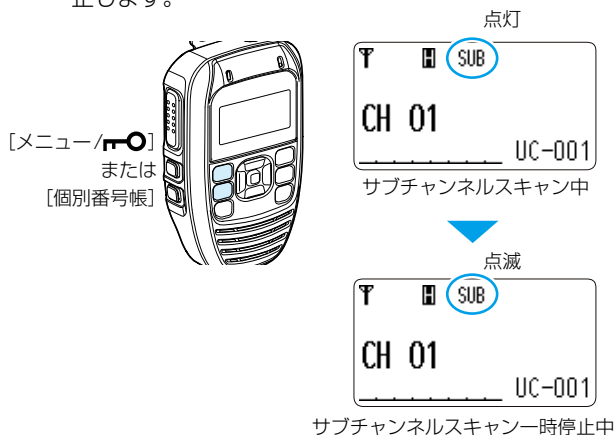
【表示中のメモリーチャンネルを変更するには】

「SUB」が点灯しているあいだ、無線機は常にサブチャンネルをスキャンしています。

サブチャンネルのスキャン中(「SUB」点灯)は、表示中のメモリーチャンネルを変更できません。

メモリーチャンネルを変更する場合は、以下の手順でサブチャンネルのスキャンを一時停止させて変更してください。

1. [メニュー/]、または[個別番号帳]を短く押します。
 - 「SUB」が点滅し、サブチャンネルのスキャンが一時停止します。



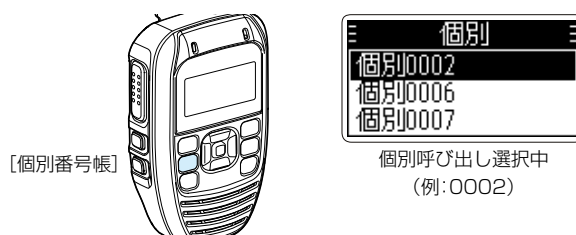
2. [▼]/[▲]を押して、相手と同じメモリーチャンネルに合わせます。

■ サブチャンネルで個別呼び出しをする

お買い上げの販売店で個別呼び出し機能が設定されている場合、サブチャンネルで個別呼び出しができます。

※通話のしかたについては、4-2ページをご覧ください。

1. [メニュー/]、または[個別番号帳]を短く押します。
 - 「SUB」が点滅し、サブチャンネルのスキャンが一時停止します。
2. 「SUB」が点滅しているあいだに、[個別番号帳]を繰り返し押して、呼び出す相手を選択します。

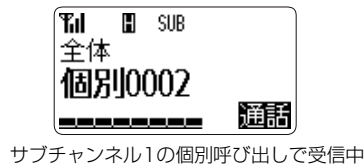


3. [▼]/[▲]を押して、相手の個別番号、またはグループ番号を選択し、[決定]を押します。
4. 他局が通信していないこと(送・受ランプ:消灯)を確認し、[サイド1]、または[サイド2]を押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけます。



■ サブチャンネルで受信する

サブチャンネルで受信すると、サブチャンネルに設定されたメモリーチャンネル表示になります。



応答するときは、そのサブチャンネルが設定されている[サイド1]、または[サイド2]を押します。

※サブチャンネルで受信したとき、[PTT]で応答できるようにするには、設定が必要です。お買い上げの販売店にご依頼ください。

ご注意

「SUB」が点灯しているあいだ、無線機は常にサブチャンネルをスキャンしています。

[メニュー/]、または[個別番号帳]の操作後など、サブチャンネルのスキャンが一時停止中(「SUB」点滅)は、サブチャンネルで受信できませんので、ご注意ください。

本製品の設定モードから、設定できる機能を変更する方法について説明します。

設定できる項目は、お買い上げいただいたときの設定によって異なります。

詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

■ 設定一覧

本製品、または別売のコマンドマイク(HM-253)に表示される設定項目について説明しています。

設定項目	初期値	参照
Pベル★ ¹	OFF	P.8-2
マイクゲイン	0	P.8-2
発着信履歴消去★ ¹	---	P.8-2
サブチャンネルPTT★ ²	CH 01	P.8-2
スピーカー出力	自動	P.8-3
バックライト	ON	P.8-3
バックライト輝度	2	P.8-3
マイク表示輝度★ ²	5	P.8-3
Bluetooth	OFF	P.8-3

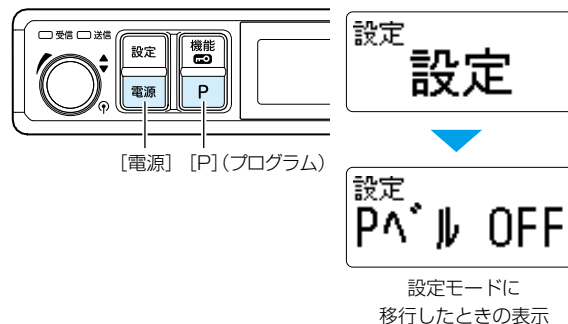
★1 個別呼び出し機能の設定が「ON」の場合だけ表示されます。

★2 設定には、コマンドマイク(別売品:HM-253)を無線機に接続してください。

■ 設定モードに移行するには

【操作のしかた】

1. 本製品の電源を切ります。
2. [P]を押しながら、[電源]を押しつづけます。



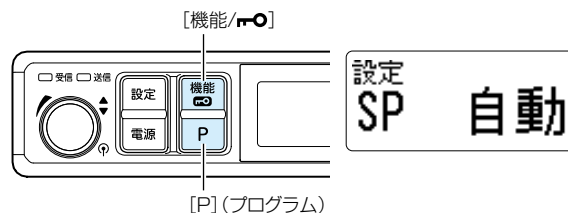
3. 「設定」と表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。
・設定項目が表示されます。
※設定モードを解除するまで通話できません。
4. 「■ 設定のしかた」の操作をすると、設定値を変更できます。

■ 設定のしかた

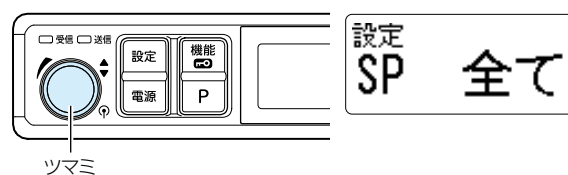
設定モードに移行後、下記の手順で各機能の設定を変更できます。

【操作のしかた】

1. [機能/]、または[P]を繰り返し短く押して、設定項目(例：スピーカー出力)を選択します。
・現在の設定値(例：自動)が表示されます。



2. ツマミを回して、設定値を選択します。(例：全て)
※ほかの機能も変更するときは、手順1、2の操作を繰り返します。

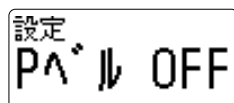


3. 設定モードを解除するときは、[PTT]を押します。
※設定値を変更後に、電源を切った場合でも、設定値が確定されます。

8 各種機能の設定

■ 設定項目について

Pベル (初期設定:OFF)



Pベル機能を設定します。

Pベル機能を使用すると、呼び出し(全体/個別/グループ)を受けたとき、応答するまで相手の音声をミュート(聞こえないように)します。

※この項目は個別呼び出し機能の設定が「ON」の場合だけ表示されます。

※コマンドマイク(別売品:HM-253)使用時は、「ピープ」項目から下の階層に表示されます。

- OFF : Pベル機能を使用しない
- ブザー : 個別、グループ、または全体呼び出しを受信したとき、音声をミュートしてブザーが鳴る
- メロディ : 個別、グループ、または全体呼び出しを受信したとき、音声をミュートしてメロディーが鳴る
- BOF (ブザーOFF) : 個別、グループ、または全体呼び出しを受信したとき、音声をミュートするがブザーは鳴らない

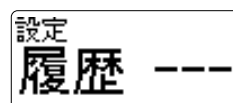
【ブザー、メロディ、BOFに設定した場合】

◎表示部には、「P」が表示されます。

◎ポケットピープ機能と併用する場合、基地局/個別呼び出しを受けたとき、Pベル機能のブザー(ピー音、3回)、またはメロディー音(1回)が鳴ったあとに、ポケットピープ機能で設定された呼び出し音、またはメロディー音(3回)が鳴ります。

また、「BOF」(ブザーOFF)に設定すると、基地局/個別呼び出しを受けても、ポケットピープ機能で設定された呼び出し音やメロディー音は鳴りません。

発着信履歴消去 (初期設定: ---)



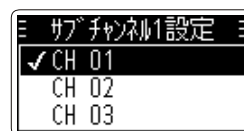
記憶された発信履歴、および着信履歴を消去します。

※「消去」を選択して、[PTT]を押した時点で、履歴が消去されます。

※コマンドマイク(別売品:HM-253)使用時は、「呼出制御の設定」項目から下の階層に表示されます。

- --- : 履歴を消去しない
- 消去 : 履歴を消去する

サブチャンネルPTT (初期設定:CH 01)



コマンドマイク(別売品:HM-253)使用時、

側面の[サイド1]/[サイド2]にサブチャンネル1、またはサブチャンネル2を設定することで、チャンネル切り替え操作をせずに、最大3CH間で送受信ができます。設定モードでは、すでに割り当てられたサブチャンネルを変更できます。

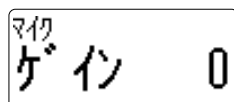
※サブチャンネルPTT機能を使用するには、あらかじめ[サイド1]、または[サイド2]にサブチャンネルPTT機能を割り当てる必要があります。

設定については、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

※サブチャンネルPTT機能の使いかたについては、7章をご覧ください。

- 選択範囲:CH 01~CH 75

マイクゲイン (初期設定:0)



マイクロホンの感度を設定します。

- 選択範囲:-15(低)~0(中)~18(高)

※3dB単位で選択できます。

※周囲の騒音が大きい場所では、低い値に設定し、大きな声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。

また、周囲の雑音が小さい場所では、高い値に設定し、小さめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。

8 各種機能の設定

■ 設定項目について

スピーカー出力 (初期設定:自動)

設定
SP 自動

外部スピーカーを接続したとき、マイクロホン(別売品: HM-253、HM-254)から受信音を出力するかしないかを設定します。

- 自動 : 外部スピーカーだけに音を出す
- 全て : 外部スピーカーとマイクロホンの両方に音を出す
- HM : マイクロホンだけに音を出す

ご注意

市販の外部スピーカー(ステレオプラグ)を接続した場合、外部スピーカーから音が出ないことがあります。
※別売品(9章)の外部スピーカーをご使用ください。

バックライト (初期設定:ON)

設定
ライト ON

送信以外の操作をすると、表示部との照明を自動点灯させるかさせないかを設定します。

※コマンドマイク(別売品: HM-253)使用時は、「表示設定」項目から下の階層に表示されます。

- OFF : 点灯しない
- 自動 : 送信以外の操作をすると、照明が約5秒点灯する
- ON : 電源を切るまで消灯しない

バックライト輝度 (初期設定:2)

設定
輝度 2

無線機(表示部)と各キーの照明の明るさを設定します。

※コマンドマイク(別売品: HM-253)使用時は、「表示設定」項目から下の階層に「本体表示輝度」として表示されます。

- 選択範囲: 1～3

マイク表示輝度 (初期設定:5)

マイク表示輝度
4
✓ 5
6

コマンドマイク(別売品: HM-253)使用時、「表示設定」項目から下の階層に表示され、コマンドマイクの表示部と各キーの照明の明るさを設定します。

- 選択範囲: 1～7

Bluetooth (初期設定:OFF)

Bluetooth
機能 OFF

Bluetooth機能を使用して、Bluetoothヘッドセットを接続するときに設定します。

※ペアリング/接続のしかたについては、6章をご覧ください。

- OFF : Bluetooth機能を使用しない
- ON : Bluetooth機能を使用する

■ 別売品についてのご注意

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。

弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障、または動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

■ ホームページに掲載

別売品一覧については、弊社ホームページ
<https://www.icom.co.jp/> でもご覧いただけます。

■ 別売品一覧表

★: IP54の防塵/防水性能があります。
 上記、防塵、防水性能は、「IP表記」(P.ii)をご覧ください。

外部スピーカー

SP-30 :外部スピーカー(20W/4Ω)
 ※ケーブル長:約2.8m

SP-35/SP-35H :外部スピーカー(5W/4Ω)
 ※ケーブル長:約2m

SP-35L :外部スピーカー(5W/4Ω)
 ※ケーブル長:約6m

外部電源

PS-230A :卓上電源装置(スピーカー内蔵:7W/8Ω)

マイクロホン/ヘッドセット関係

AM-6 :マグネット基台付きマイクロホン
 ※ケーブル長:約2.5m
 ※自動車のダッシュボードなどに、マグネットまたは付属のネジで固定できます。

SM-28 :デスクトップマイクロホン

HM-249 :車載用ハンズフリーマイクロホン

HM-253★ :コマンドマイク
 ※OPC-2355を使用したときは、本製品、およびHM-253の防塵/防水性能を維持できません。

HM-254★ :防水スピーカーマイクロホン
 ※OPC-2355を使用したときは、本製品、およびHM-254の防塵/防水性能を維持できません。

OPC-2355 :マイクロホン延長ケーブル(約2.5m)
 ※HM-249、HM-254、HM-253のいずれかでお使いになれます。
 ※最大2本まで接続してお使いになれます。

OPC-2500 :マイクロホン/リモートPTTボタンケーブル延長用ケーブル
 ※HM-249でお使いになれます。

VS-3 :Bluetoothヘッドセット

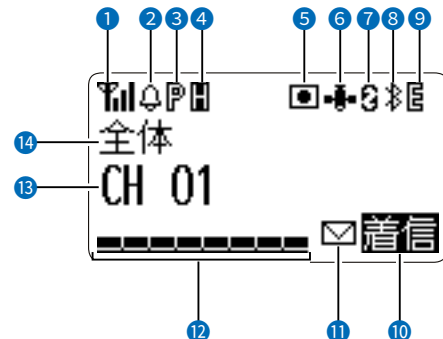
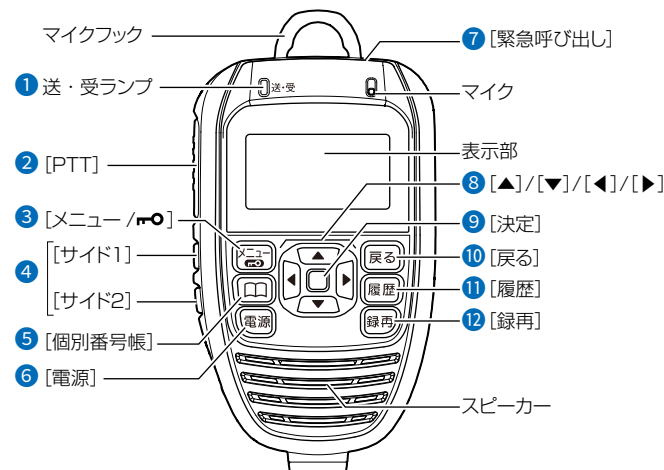
その他

UX-267 :GPSユニット

9 別売品とその使いかた

■ HM-253(コマンドマイク)

緊急呼び出し機能に対応した多機能マイクロホンです。
本製品に接続することで、IP54の防塵/防水性能があります。



★お買い上げの販売店で設定されている場合だけ、動作、または表示されます。

1 送・受ランプ

緑色:受信、赤色:送信、橙色:着信時

2 [PTT]

押す:送信状態、はなす:待ち受け状態

3 [メニュー/ⓂⓄ]

短く押す:メニュー画面、長く押す:ロック機能ON/OFF

4 [サイド1]/[サイド2]*

機能を割り当てて使用するキーです。

5 [個別番号帳]*

押すごとに、全体/基地/個別/グループ番号を選択する画面に切り替わります。

6 [電源]

電源をON/OFFします。

7 [緊急呼び出し]*

長く(5秒以上)押すと、緊急呼び出しを開始します。

8 [▲]/[▼]/[◀]/[▶]

[▲]/[▼]: 通話チャンネル番号、[◀]/[▶]: 音量調整

9 [決定]

選択した内容を確定します。

10 [戻る]

メニュー画面: 1つ上の階層に戻る、通話後: 終話する

11 [履歴]*

押すごとに、着信/発信/録音履歴画面に切り替わります。

12 [録再]*

短く押す: 録音/一時停止、長く押す: 最新録音内容の再生

1 電波状態表示(P.1-2)

2 ベル表示*(P.1-2)

3 Pベル表示*(P.1-2)

4 送信出力表示(P.1-2)

5 録音/再生表示*

📄: 録音データあり、📄: 録音中、📄: 録音一時停止

6 GPS表示*(P.1-2)

7 秘話表示*

8 Bluetooth機能表示*(P.1-2)

9 緊急呼び出し(エマージェンシー)表示*

緊急呼び出し機能が設定されているとき、表示されます。

10 通話/呼出/着信表示*

📞: 個別呼び出し機能で通話中

📞: 個別/基地局呼び出しで送信中

📞: 自局宛ての個別呼び出しを受信したとき

11 ショートメッセージ表示*

ショートメッセージを受受信したときに表示します。

12 Sメーター表示(P.1-2)

13 CH表示

通話チャンネルが表示されます。

14 個別呼び出し種別表示*

個別呼び出し機能が設定されているとき、個別呼び出しの種類が表示されます。

9 別売品とその使いかた

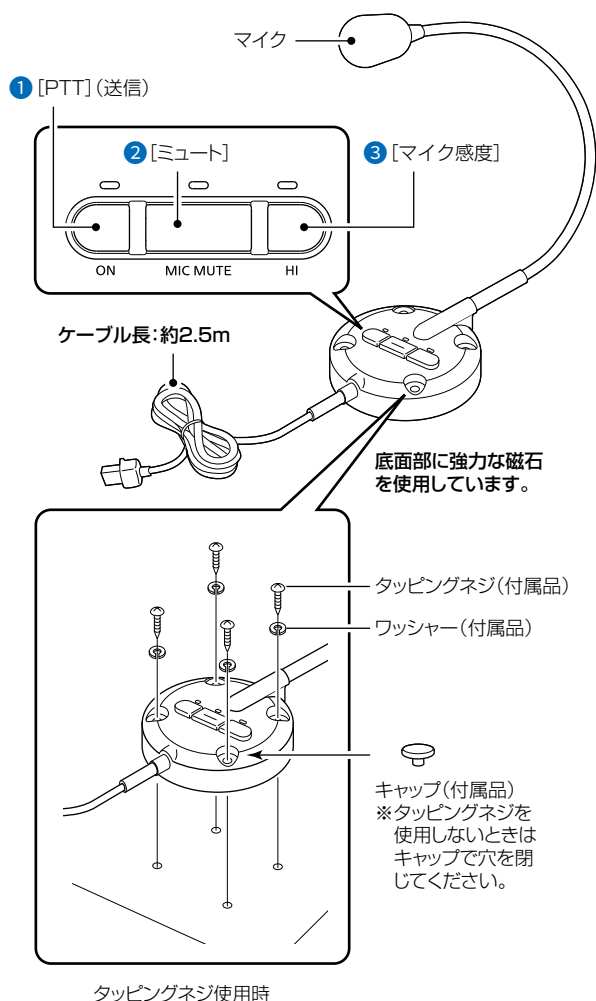
■ AM-6(マグネット基台付きマイクロホン)

単一指向性エレクトレットコンデンサーマイクロホンです。

自動車のダッシュボードなど、底面のマグネットで取り付けできない場所での使用に適しています。

マグネットで固定できない場所へは、下図のように付属のネジで固定してください。

※外部スピーカー(別売品)と併せてご使用ください。



底面に強力な磁石を使用しています。

△警告

心臓ペースメーカーなど電子医療機器をお使いのかたは、心臓ペースメーカーなどの植え込み部位の上にマイクロホンの底面を近づけたり、当てたりしないでください。

電子医療機器などの動作に影響を与え、生命の危険があります。

△注意

時計、コンパスや精密機器、キャッシュカードやクレジットカードなどの磁気/ICカードを近づけないでください。

製品の誤動作の原因になったり、磁気/ICカードの内容が消去されたりすることがあります。

① [PTT] (送信)

押すと送信状態に、もう一度押すと待ち受け状態になります。

※送信状態のあいだは、ランプが青色に点灯します。

※本製品の電源を入れる前に、[PTT]が押されていない状態であることを確認してください。

② [ミュート]

押すとマイクをミュート(消音)し、もう一度押すとミュートを解除します。

※ミュートにしているあいだは、ランプが赤色に点灯します。

③ [マイク感度]

押すとマイク感度が高くなり、もう一度押すと低くなります。

※感度が高いあいだは、ランプが緑色に点灯します。

※マイクとの距離、声の大きさ、周囲の騒音など、環境に応じて、切り替えてください。

ご参考

◎製品の構造上、アーム部を曲げる位置によっては自立できませんので、底面のマグネットで固定できるように別途鉄板などをご用意ください。

◎製品に付属のネジで固定するとき、基台にある4カ所のネジ穴がキャップでふさがれている場合は、ペン先などでキャップの裏側から押しはずしてください。

◎送信音声に操作音(ノイズ)が発生する場合がありますので、アーム部の角度調整や[PTT]の操作をするときは、[ミュート]を押してミュート状態にしてください。

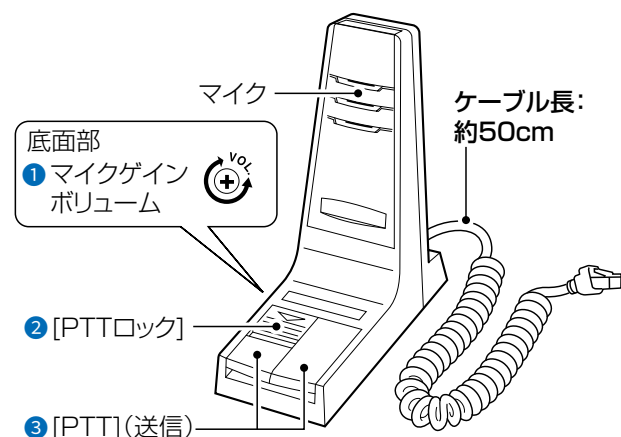
9 別売品とその使いかた

■ SM-28(デスクトップマイクロホン)

マイクアンプ内蔵の単一指向性ダイナミックマイクロホンです。

デスク上など、平面での使用に適しています。

※外部スピーカー(別売品)と併せてご使用ください。



① マイクゲインボリューム

マイクとの距離、声の大きさ、周囲の騒音など、環境に応じて、マイクの感度を調整します。

※ボリュームを左に回すと、感度が高くなります。

② [PTTロック]

押しながら三角印の方向にスライドすると、[PTT] (送信)がロックされ、ハンズフリーで送信できます。ロックを解除するときは、反対方向にスライドします。

③ [PTT] (送信)

押しているあいだは送信状態、はなすと待ち受け状態に戻ります。

10 保守について

■ 日常の保守と点検について

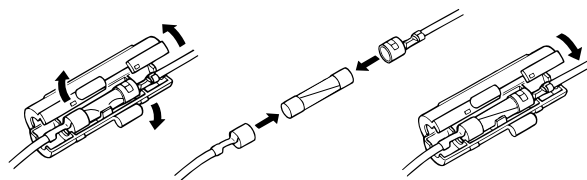
- ◎清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。
- ◎定期的に決まった位置の相手局と通話して、通話状態に変化がないかを調べてください。
- ◎音量が最小に調整されていないか、無線機本体のツマミを回して、表示される音量レベルを確認してください。

■ ヒューズの交換について

DC電源ケーブル(付属品)には、2本のヒューズ(125V/5A)が使用されています。

※ヒューズが切れて動作しなくなったときは、原因を取り除いてから新しいもの(付属品)と交換してください。

※下図のヒューズカバーには、「5A」のシールが貼られています。

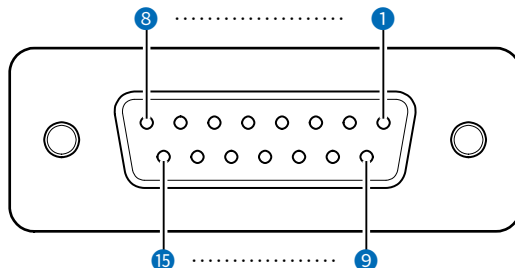


10 保守について

■ 外部機器接続ケーブルの端子について

各機能を使用するには、お買い上げの販売店で設定が必要です。

◇D-sub 15ピン

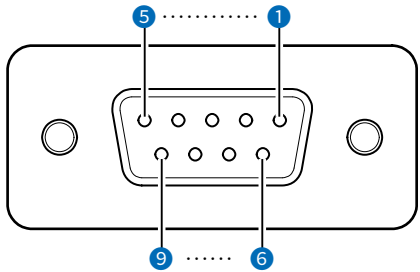


端子番号	端子名	I/O	内容	条件
1	5C	O	DC 5V出力	DC 5V±10% Max100mA
2	GND	—	GND	—
3	TXD1	O	UART通信ポート	5V CMOSレベル出力(5V 1kΩ内部プルアップ) ※外部BER出力:DATA
4	RXD1	I	UART通信ポート	5V CMOSレベル入力(5V 47kΩ内部プルアップ)
5	BUSY	O	受信状態出力	SQL信号出力 :BUSY時H ※設定による AMUTE出力 :AF 出力時H ※設定による (5V 47kΩ内部プルアップ) ※外部BER出力:CLK
6	$\overline{\text{EPTT}}$	I	外部PTT	H(オープン) :送信停止 L(GND に接続) :送信 (3.3V 22kΩ内部プルアップ)
7	EAFO	O	外部音声出力	72mVrms typ. (音量最大、10kΩ負荷時) (1031Hz パターン -22dBm0) ※音量固定、または音量調整と連動
8	EMIC	I	外部マイク入力	標準マイク感度9mVrms±3dB ※入力インピーダンス10kΩ
9	MICE	—	マイクGND	
10	IO 1	I/O	プログラマブル入出力	(5V 4.7kΩ内部プルアップ)
11	IO 2	I/O	プログラマブル入出力	(5V 4.7kΩ内部プルアップ)
12	IO 3	I/O	プログラマブル入出力	(5V 4.7kΩ内部プルアップ)
13	IO 4	I/O	プログラマブル入出力	(5V 4.7kΩ内部プルアップ)
14	IO 5	I/O	プログラマブル入出力	(5V 4.7kΩ内部プルアップ)
15	IO 6	I/O	プログラマブル入出力	(5V 4.7kΩ内部プルアップ)

10 保守について

■ 外部機器接続ケーブルの端子について

◇D-sub 9ピン



端子番号	端子名	I/O	内容	条件
1	8C/5C	O	DC 5V	DC 5V ± 10% Max300mA
2	TXDO	O	RS-232C通信(TXD)	RS-232Cレベル出力(−5〜+5V)
3	RXDO	I	RS-232C通信(RXD)	RS-232Cレベル入力(−15〜+15V)
4	RXD	I	通信ポート(UART:RXD)	5V CMOSレベル入力(5V 47kΩ内部プルアップ)
5	GND	—	GND	—
6	TXD	O	通信ポート(UART:TXD)	5V CMOSレベル出力(5V 1kΩ内部プルアップ)
7	CTSO	I	RS-232C通信(CTS)	RS-232Cレベル入力(−15〜+15V) ※RS-232Cフロー制御
8	RTSO	O	RS-232C通信(RTS)	RS-232Cレベル出力(−5〜+5V) ※RS-232Cフロー制御
9	OPT1	I	外部UNIT接続検出	最大5Vアナログ電圧入力★ (5V 22kΩ内部プルアップ)

★ 誤検出を防ぐため、不要な接続はお控えください。

10 保守について

■ 故障かな?と思ったら

下記のような現象は故障ではありませんので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。

それでも異常があるときは、弊社サポートセンターまでお問い合わせください。(P.10-5)

現 象	原 因	処 置	参照
電源が入らない	接続端子の接触不良	バッテリー、または卓上電源装置(別売品：PS-230A)との接続を確認する	—
	DC電源ケーブルのヒューズが切れている	原因を取り除いたあとで、新品のヒューズと交換する	P.10-1
スピーカーから音が聞こえない	音量が最小に調整されている	無線機本体の音量レベルを確認する	P.1-1
	外部スピーカーの設定が正しくない	設定モードで、外部スピーカーの設定を確認する	P.8-3
	マイクロホン、または外部スピーカー端子の接触、または接続されていない	コマンドマイク、または外部スピーカーが正常に接続されているか、ケーブルが断線していないかを点検する	—
通話できない	通話チャンネルが合っていない	相手と同じ通話チャンネルに合わせる	P.2-1
	ユーザーコードが合っていない	相手と同じユーザーコードを設定する	P.3-1
	相手が秘話機能を使用していない、または自分の秘話IDと秘話キーの設定が異なる	お買い上げ時、秘話IDと秘話キーが設定されている場合、秘話IDと秘話キーが異なる相手とは通話できません	P.5-2
	個別番号、またはグループ番号を間違えている	相手の個別番号、またはグループ番号を確認する	P.4-1
相手から応答がない	相手との距離がはなれすぎている	場所を移動してから通話してみる	P.2-2
	相手局が不在、または電源を切っている	自局、または相手局の状態を確認する	—
「キーロック」、「キーロック中」と表示される	ロック機能が動作している	ロック機能を解除する	P.5-1
モニター機能が使用できない	[P]の動作が、モニター機能以外の操作に割り当てられている	お買い上げの販売店に、[P]の動作変更をご依頼ください	—
本書で説明されている機能が使用できない	お買い上げ時、あらかじめ設定されていない機能である	使用できる機能については、お買い上げの販売店にお問い合わせください	—

10 保守について

■ アフターサービスについて

「■ 故障かな?と思ったら」(P.10-4)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

● 保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

● 弊社製品のお問い合わせ先について

お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

**お問い合わせ先:アイコム株式会社 サポートセンター
0120-156-313(フリーダイヤル)**

**◆ 携帯電話・公衆電話からのご利用は、
06-6792-4949(通話料がかかります)**

受付(平日 9:00~17:00)

電子メール:support_center@icom.co.jp

アイコムホームページ:<https://www.icom.co.jp/>

How the World Communicates

～コミュニケーションで世界をつなぐ～

